

外務省中南米局「日系社会連携事業」委託業務

2022年度『中南米日系社会実相調査』

— 13か国版（アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、キューバ、
コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ブラジル、
ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ）—

調査結果 全体報告書

委託期間：2022年9月～2022年12月
（調査期間：2018年8月～2022年10月）

2022 年 11 月15日

サンパウロ人文科学研究所

日系社会調査プロジェクトチーム

責任者： 細川多美子

【目 次】

概要	3
本編：2022 年度『日系社会実相調査』	
13か国版（アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、キューバ、コロンビア、 チリ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、 ボリビア、メキシコ）	
I. 本調査の背景と意義	6
II. 調査方法と実施態様（全体）	
1 委託内容	6
2 準備作業と調査方法の策定	7
3 システム入力と結果抽出	12
4 13か国を扱うにあたっての注意点	13
III. 結果と分析	
1 基本データ	16
2 学歴	25
3 職歴	27
4 日系団体への参加	39
5 非日系団体への参加	50
6 日本訪問歴	53
7 日本に対する印象、好きなことと嫌いなこと	55
8 語学力（日本語と英語、スペイン語・ポルトガル語の理解度	63
9 その他の要望、提案、コメント等	67
10 新型コロナウイルス感染拡大の影響について	73
IV. まとめと考察	76
V. 今後のあり得るべき施策一案	80

【概 要】

外務省中南米局「日系社会連携事業」委託業務

2022年度『日系社会実相調査』

- － 13か国版（アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、キューバ、コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ）－

目的：

次世代日系人の現況及び社会的活動（日系社会・地元社会での参加率）、日本への期待や感情等の意識調査

対象者および回答者数：

日系二世、三世及び四世、五世等を含む20歳から49歳。

13か国 合計 2,567人。

実質調査期間と実施方法：

2018年7月～2021年10月。

現地における実地調査およびオンライン調査。

調査内容（アンケート形式 全42問）：

- ①基礎データ（年齢、性別、世代、家族等）、②学歴、③職歴、④日系意識と日系団体への参加、⑤非日系団体への参加、⑥日本訪問歴、⑦日本のイメージ、⑧語学力（日本語と英語）、⑨その他のコメント等、⑩新型コロナ感染拡大の影響

結果概要と分析：【13か国】

回答者の基本データ（年齢、性別、世代、家族、職業等）

回答者の平均年齢は33.89歳、20代から30代が中心。世代は二世から五世まで様々だが、三世が約6割を占めている。国によってその割合にはかなり差がある。自分のルーツが日本のどの県かは、8割方が答えられている。既婚者は3割強のみで、パートナーが非日系人と回答した人が50%を超えている。その地域の移民の時期や形態でその割合は大きく変わる。

居住する都市は250に及ぶ。総じて高学歴で、80%近くが大学へ進学、修士課程・博士課程への進学者も多い。職業は多岐にわたり、最も多いのが商業従事者で、その他技術専門職、教育関係も多い。

日本への就労の興味は大きく割れる。日本での就労をデカセギと捉える国とそうでない国で興味のあり方が違う。

日系人としての意識、地元日系団体への参加

自らの日系意識は、「とてもある」の強い意識を持つ人が約50%、「まあまあ」まで含めると約90%が持っている。国によって置かれた環境でその割合は変わり、大きな日系社会がある国ほどその意識は薄くなる。

自身の活動地区に日系団体があると答えている人は全体の70%で、都市部では多くの人がその存在を認識している。日系団体のない都市に居住する日系人も多く、そのため参加できない人から、都市部でもあまり参加しない人や全く関わらないという人の割合が23%にのぼる。

各国における日系社会や日系人、日本という存在については、周囲の非日系人からの注目度が高く、良好な関係が築かれており、日系団体の運営や文化の広報に非日系人を含めた視点を求める声が多い。

訪日体験、日本への関心・イメージ・要望

訪日経験がある人の割合は全体の約50%で、滞在期間や回数は少ないが、上位7か国では60%以上の人が訪日している。

ほぼ100%の人が日本に対し好印象を抱いている。日本を好意的に受け止めている面は、主に規律、まじめさ、秩序、正確さといった制度の厳格さや道徳的な精神性が挙げられ、日本を否定的に捉えている面として、外国人への差別、柔軟性の低さ、男尊女卑が挙げられる。日系人への理解の低さや情報の不足、日系人のビザや国籍取得に関する制度の緩和などについての要求も見られる。

大使館や外務省の事業などの認知度及びインターネットによる情報の活用度は20～30%程度。

日本語レベル

初級レベル以下が全体の約80%、上級レベル以上は10%程度で、日本語能力としては大半の人が非常に低いと認識している。日本語能力試験の受験経験者は20%にとどまる。日本語レベルは国による差が大きい。英語は中級レベル以上が70%程度。また、母国語ができない（日本生まれ）という人たちが一定数存在する。

新型コロナの感染拡大の影響

時期にかかわらず「特に変化はない」が約40%で、ある程度の収入減から失業まで影響を受けたとの回答が60%となったが、総体的に打撃は少ない方ではなかったかと思われる。日系社会の活動は停止しているが、若い世代がインターネットを利用し、新たなネットワークを構築する動きがあった。

まとめと今後のあり得るべき施策として

- ①国ごとの歴史背景を考慮しつつ、大きく変化した日系社会の実態を把握し、日系人を理解するための認識を改める。
- ②多様化した日系人の実態に鑑み、「日系意識」や「日本精神文化（Value）」を保持したり、連帯感を高めるための施策として、イベントのバックアップ。
- ③日系人の連帯や文化の発信拠点としての日系団体の見直しと活性化。
- ④SNSやオンラインツールなどを利用した情報発信を行い、非日系を含めたより広範囲への広報を試みる。
- ⑤日本精神文化との関連性における日本語教育の普及。

本 編

2022年度『日系社会実相調査』

- 13か国版（アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、キューバ、
コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ブラジル、
ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ）—

I. 本調査の背景と意義

中南米日系社会と日本政府や日本の在外公館とは緊密な関係が築かれており、その連携も良好な状況にあるが、現在の日系社会は多様な発展を遂げており、特に若い世代の社会進出においては想像を超える活躍が見られる。日系社会活動に携わっていない日系人も多く、新しい時代を切り拓く次世代の日系人、また今後日系社会の中核となる世代の意識や行動などの実態は把握されていなかった。本調査は、今まで日系社会とは疎遠であった人々をも含む次世代日系人に初めて光を照てたものとして2500人余りの現実の声を拾い、新たな日系社会像を浮き彫りにした。これまでの日系人調査とは一線を画す、画期的かつ貴重な結果を得られた調査となった。

II. 調査方法と実施態様（全体）

■ 1 ■ 委託内容

① 目的：

次世代日系人の活動、社会進出状況及び対日意識等の実相に関し、民間調査会社等による調査を実施し、今後、我が国が中南米地域の広い意味でのより現実的でより実効性のある日系社会施策を検討していくにあたり、基礎資料として利活用する。

② 対象者および回答者数：

日系二世、三世及び四世、20歳から49歳。

各国の日系社会状況を考慮し、調査地や調査数を策定。

③ 実質調査期間と実施方法および調査機関：

①2018年7月～2019年1月。

現地における実地調査。

調査機関： イデア・ネットワーク(アルゼンチン、キューバ、メキシコ)

サンパウロ人文科学研究所（ブラジル）

②2019年2月～2022年10月。

新型コロナ感染拡大防止対策としてオンライン調査

調査機関： サンパウロ人文科学研究所(ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、チリ、
ドミニカ共和国、パラグアイ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア)

④ 調査内容：

アンケート形式 全42問

①基礎データ（年齢、性別、世代、家族）

- ②学歴
- ③職歴
- ④日系団体への参加
- ⑤非日系団体への参加
- ⑥日本訪問歴（旅行、家族訪問、留学、研修、就労）
- ⑦日本に対する感情、好みと嫌いなこと、関心とイメージ
- ⑧語学力（日本語と英語の理解度）
- ⑨その他の要望、提案、コメント等
- ⑩コロナ禍における状況

⑤ 報告書作成

既に実施済みのアンケート結果13か国分全体について、必要に応じて補足的調査を実施しつつ、各国のみならず横断的網羅的に分析、今後我が国が中南米日系社会との連携を強化していくうえで、望ましいと考えられる施策について記述する。

■ 2 ■ 13か国調査の準備作業と調査方法の策定

① 調査票の調整と翻訳

用意されたスペイン語による調査票を、より明確な回答を得るため質問を細分化するなど調整。ブラジルについてはそれをポルトガル語に翻訳、ブラジル仕様にした。スペイン語圏については、国毎に異なる表現があるかどうかを数人のモニターに回答してもらって確認作業を行い、同時に所要時間の目安をはかり、1人当たり20分から60分程度とした。すべて無記名。

② 回答用サイトおよびシステムの構築

①の調査票をインターネット上から回答できるサイト（パソコン用とスマホ用の両方）と、その回答と連動して管理・集計できるオンラインシステムを構築した。対象外の回答者が紛れ込んだり、回答者が重複しないよう、回答中の監視ができるコントロール用ページを作成した（随時不具合や集計システムを改良）。

4. / 7

12. ¿Le interesa trabajar en Japón?

Responda del 1 al 5, donde 1 es ninguno y 5 es la calificación máxima.

☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5

b. Si está interesado, describa el tipo de trabajo que le interesa:

13. ¿Conoce las prácticas laborales y comerciales de Japón?

a. ☐ Sí ☐ No

b. Si es así, describa lo que sabe sobre ellos:

14. Enumere las empresas de Japón que conoce:

15. ¿En qué ciudad le gustaría vivir en Japón? :

Participación en actividades o instituciones Nikkei

16. ¿Se ve a sí mismo como Nikkei?

Responda del 1 al 5, donde 1 es ninguno y 5 es la calificación máxima.

☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5

17. En su localidad o región, ¿encuentra Nikkels a su alrededor?

☐ Nunca ☐ muy raramente ☐ a veces ☐ con frecuencia ☐ siempre

18. En su localidad o región, ¿hay instituciones Nikkei?

☐ Sí ☐ No

b. Si es así, ¿cuáles son?

Editor	Visualización	Id	Fecha final	País	C. Ciudad en que reside	E. Edad actual	E. Sexo	E. Escolaridad	Calificación
		1.074	29/10/2017 20:46	Colombia	Medellín	42	Femenino	Terminó (2º generación)	55
		1.075	29/10/2017 19:41	Colombia	Cali	33	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.080	16/10/2017 22:01	Colombia	Bogotá	23	Neutro	Otro	55
		1.088	16/10/2017 20:11	Colombia	Bogotá	39	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.087	16/10/2017 22:48	Colombia	Cali	26	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.094	16/10/2017 17:10	Colombia	Bogotá	23	Femenino	Otro	55
		1.095	16/10/2017 19:30	Colombia	Cali	34	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.094	17/10/2017 20:17	Colombia	Medellín	34	Femenino	Terminó (2º generación)	55
		1.092	17/10/2017 19:11	Colombia	Cali	41	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.092	17/10/2017 20:16	Colombia	Cali	32	Femenino	Terminó (2º generación)	55
		1.091	16/10/2017 19:33	República Dominicana	Santo Domingo	38	Femenino	Terminó (2º generación)	55
		1.092	16/10/2017 22:17	República Dominicana	Santo Domingo	30	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.093	16/10/2017 20:24	Cuba	Santiago	39	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.094	16/10/2017 20:34	República Dominicana	Santo Domingo	36	Femenino	Terminó (2º generación)	55
		1.097	16/10/2017 20:38	República Dominicana	Santo Domingo	37	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.098	17/10/2017 22:30	Ecuador	Guayaquil	40	Neutro	Terminó (2º generación)	55
		1.094	16/10/2017 20:40	Ecuador	Quito	30	Femenino	Terminó (2º generación)	55
		1.092	16/10/2017 20:16	Ecuador	Cuenca	32	Neutro	Terminó (2º generación)	55

[回答者の管理ページ](#)

サイト上のアンケートページ

③ 対象者の人数策定と洗い出し

13か国それぞれの基本情報としての推定日系人口、分布、日系団体の有無、その概要及び、個人や団体情報を特定できるSNS、ホームページなどをリサーチし、まず調査対象とする人数を割り出し、どの都市のどの人たちを調査対象にできるか目星をつけ、大凡以下の方針に定めた。日系人人口の大小からバランスを考慮しつつ、調査数としての有効性を高め、且つ効率的にするべく多くのサンプルを得られるよう目標人数を設定した。

現地に日系団体がある場合には、多くの場合協力を要請したが、対象者が偏らないために、必ずしもそれだけに頼ることは避けた。

■各国の対象者選出方法

アルゼンチン： 実地 + 新型コロナ関連のみオンライン

日系団体に協力を要請し、首都やその郊外、地方都市等で日系人にヒヤリング調査。

ウルグアイ： オンライン

首都モンテビデオの日本人会を中心に対象者割り出しの協力を要請。

エクアドル： オンライン

グアヤキルおよび首都キトを中心に、現地日系企業やSNS上の対象者を手がかりに協力を依頼。

キューバ： 実地 + 新型コロナ関連オンライン

日系団体に協力を要請し、首都やその郊外、地方都市等で日系人にヒヤリング調査。

コロンビア： オンライン

カリ市、首都ボゴタを中心に、日系企業や日本語学校、現地の知人、SNS上の対象者などをリサーチ。

チリ： オンライン

バルパライソ、首都サンチアゴを中心に、現地日系協会や、SNS上の対象者を手がかりに協力を

依頼。

ドミニカ(共)： オンライン

移住地周辺を手掛かりに日系社会をリサーチ。首都サントドミンゴを中心に、知人をたどり協力をあおいだ。

パラグアイ： オンライン

首都アスンシオン、エンカルナシオン他、エステ、イグアス、ピラポ等6ヵ所の移住地に行きわたるよう計画。在アスンシオンのパラグアイ日本人会連合会及び現地の知人、SNS上の対象者に協力を要請。

ブラジル： 実地＋新型コロナ関連のみオンライン

サンパウロ人文科学研究所が行った「日系社会実態調査」をもとに、国内の主だった日系人居住地を選出し、イベント時を利用して対象者に対面でアンケートを依頼。

ベネズエラ： オンライン

首都カラカス、メリダを中心に、現地の知人、SNS上の対象者などを手掛かりにリサーチ。

ペルー： オンライン

首都リマを中心にクスコなどの地方都市にも及ぶよう検討。

ペルー日系人協会（APJ）及び現地の知人、SNS上の対象者に協力を要請。

ボリビア： オンライン

サンファン移住地、コロニア・オキナワの他、ラパス、コチャバンバ、ベニまでを想定。

ボリビア日系協会連合会、移住地在住の日系人、SNS上の対象者に協力を要請。

メキシコ： 実地＋新型コロナ関連のみオンライン

日系団体に協力を要請し、首都やその郊外、地方都市等で日系人にヒヤリング調査。

【表1】各国の調査人数策定と実際の調査人数

国 名	推定日系人口 (※1)	目標とした 調査対象者数	実際の 調査人数	新型コロナ関連 補足調査人数(※2)
アルゼンチン	50,000人	不明(※3)	148人	15人
ウルグアイ	300人	15人	21人	
エクアドル	300人	15人	18人	
キューバ	1,200人	(不明)	114人	25人
コロンビア	1,800人	30人	42人	
チリ	2,000人	30人	38人	
ドミニカ共和国	800人	20人	23人	
パラグアイ	10,000人	100人	111人	
ブラジル	1,900,000人	1000人	1,395人	70人
ベネズエラ	350人	20人	25人	
ペルー	100,000人	300人	354人	
ボリビア	10,000人	100人	108人	
メキシコ	30,000人	(不明)	170人	15人
合 計	2,146,800人		2,567人	

※1 現地日系人から得た最新の情報。

※2 「補足調査人数」は、コロナ禍以前に本調査を行い、新型コロナ感染に関する質問事項がなかったため、本報告書を作るにあたって、新たに調査したもの。

※3 不明箇所（アルゼンチン、キューバ、メキシコ）については、調査初期に、本報告書を作成したものとは別の機関が行ったため、その過程がわからない。

④実施方法・手順の模索・決定

（１）実地調査（ブラジルの場合）

■実施方法に関する留意点

- a) 対象者の抽出方法（サンプリングとその公平性や客観性）、バイアスに対する留意点、アンケート方法（対面式か配布・回収か）等について、メリット、デメリットなどを検討し、調査地を選定、実地における対面式を採用。
- b) 普段日系社会に関わっていない人にも参加してもらうためにはどうすべきか、職業や経歴などの偏りがないようにするにはどうすべきか、なるべく自然な回答を得るにはどうすべきか等をふまえた上で、無作為抽出で対象となる日系人と接触する有効な手段として、ブラジル各地で行われているイベントを利用するのが最適であるとし、各地域で最も大きなイベント（主として「日本祭り」系）を訪れ実地調査に及んだ。ちなみに2019年は史上空前の“日本祭り”ブームで、例年に増して数多くのイベントが全国で計画されていた。ブラジルについてはその特殊性が利用できた。
- c) 各日系団体へ配布・回収を委託する方法もテストとして一部行ったが、時間がかかること、回収率が悪いこと、団体関係者に偏ってしまうことなどの弊害があり、基本的な方法を b) とした。

■以上をふまえた方法と手順

- a) 各地域日系団地が行うイベントを訪れ、その場で対象となる日系人（本人に日系人であることを確認）に調査の目的を簡単に説明し、了解を得られた相手に調査票を手渡し、その場で回答を記入してもらって回収。よって回収率はほぼ100%。
- b) 調査に対する信用を得るため、日本の外務省が行っていることを明記した以下のようなバナーを作成し、イベント会場の一角に掲げて調査への参加を呼びかけ、自主的な参加も促した。

Jovens Nikkeis de 20 a 40 anos

PARTICIPEM

na

“Pesquisa sobre a atual comunidade Japonesa”

Ministério das Relações Exteriores do Japão

Centro de Estudos Nipo-Brasileiros

訳

20 ～ 40 歳の日系の若者
「日系コミュニティの現状調査」に参加しよう
日本国外務省
サンパウロ人文科学研究科

(2) オンライン調査

■実施方法に関する留意点

- a) 対面方式で行ったブラジルの調査と比較し、条件に隔たりができないようにする。
- b) 回答の信憑性を上げるため、回答者が年齢や日系・非日系、国籍などを偽装したり、複数回参加することを避けるため、アンケートのリンクをネット上では公表しない。
- c) サンプルングとしての公平性や客観性を考慮し、同じような環境の人たちに偏らないよう、なるべく任意で対象者を抽出する。
- d) 上記の理由から、調査票を配布・回収という方法は採らない。
- e) 回収（回答）率を100%に近づけるため、また対面式との差異が出ないよう、事情が許す限りビデオをオンの状態にしてもらい、1人ひとり対応できる形式を採用。

■以上をふまえた方法と手順

- a) ミーティングアプリのZoomを利用する。
- b) 日時を設定し、Zoomミーティングに参加してもらう。
- c) ミーティング上で調査の目的、方法などを説明。
- d) ミーティングに参加したまま、アンケートのサイトに入るリンクをチャットで知らせ、アンケートを進めてもらう。無記名。
- e) わからないことはその場で質問してもらう。
- f) 回答し終わったら退出。

■広報と対象者集め

- a) 各地の日本人協会、日系人協会、日本語学校等、事前のリサーチで連絡先を得た人たちと事前ミーティングを行い主旨や方法を説明、人的ネットワークを使って人集めを依頼。
- b) 依頼するにあたっては、日本の外務省が行っていることを明記したレターや、ネット上での広報として以下のようなバナーを作成しSNS上にアップした。

訳



日本国外務省実施
「南米の日系人の若者実相調査」
20～49歳の日系人

日系社会とあなたの国と日本の絆を
深めるためのアンケート
南米の若手日系人の声を聞かせてくだ
さい。
20分で回答できます。

コロンビア、エクアドル時間：17時～21
時
チリ、ベネズエラ、ドミニカ時間：18時
～22時
ウルグアイ時間：19時～23時
月曜～金曜日
サンパウロ人文科学研究所

- c) 日時を合わせるのが困難だったため、ミーティングは月曜から金曜日の上記時間帯（ブラジル時間19時～23時）をオープンにし、自由に入室してもらうようにした。

（３）実地調査とオンライン調査のメリット、デメリット

実地に出向いて調査する場合、土地の環境や周囲の状況が読みやすく、対象者とも対面することで信用が得られ、多くの情報を得ることができる。その場で本人を確認できるので、対象者選びに間違いがないが、時間制限があるため、やりにくいこともある。

オンラインでは初期段階のコンタクトに手間がかかるが、調査地に地域を特定する必要がないことで、今まで声の届かなかったような広範囲にわたっての調査が可能となった。制限時間にじばられることはないが、人数に制限があり時間がかかる。

各地で呼びかけをしてもらうキーパーソンによっては、対象者や内容に偏りが生まれるかもしれないという不安材料は、実地でもオンラインでも同じで、オンラインについてはその点をクリアするために手間をかけ、キーパーソンを多数確保することに力を注いだ。結果、普段日系の活動と関わりを持たない人たちにまで声が届いたと思われる。今回のような調査の場合、Zoomなどのツールを使って実際に顔を合わす機会を作れば、より広範な調査が可能だともいえる。また、調査側、調査される側ともに互いに連絡が取れる機会となり、交流の場になるとともに、調査後の追跡もしやすくなった。

オンラインの別の懸念材料としては、インターネット環境の良し悪し、パソコンやスマホの普及状況だったが、一部の国を除き、かなりの地方都市でも概ね問題はなかった。ただし、Zoomの利用方法がわからないという人たちが漏れてしまう点はマイナスと考えられる。

オンラインではあっても無作為ではない対面方式をとることで、回答の信憑性をあげることができた。インターネット回線による問題以外で回答やビデオでの顔出しを拒否した人はいなかった。

総合的には、どちらも回答の信憑性においては同様かと思われるが、可能ならば双方のメリットを活用したハイブリッド方式が最も有効だと思われる。

■ 3 ■ システム入力と結果抽出

① 実地調査のシステム入力

回答が記入された調査票をひとつひとつ読み上げてシステムに入力。

② オンライン調査のシステム入力

調査結果は回答者の入力から自動的にシステムに蓄積される。

本人以外の回答が紛れ込む間違いはないが、文字のタイプミスや記述式回答については、項目ごとに詳細なチェックが必要となり、調査員3人が全て目を通した。

③ 分析上の注意

13か国分、それぞれの統計を出すにあたり、移民の歴史や文化背景などを考慮した上で分析するよう心掛けた。

④ システムの利用について

直接の質問としての回答ではないが、当報告書に掲載していないデータも、様々なフィルターをかけた統計の抽出が可能で、今後も新たな分析ができるようになっている。

例) 居住地と職業の関連性、世代と日本の好きなことの関連性等。

■ 4 ■ 13か国を扱うにあたっての注意点

① 絶対数として日系人が少ない6か国の統計について

ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、チリ、ドミニカ（共）、ベネズエラの6か国は日系人の少ない国であり、回答者は最大で42人、最小で19人と、ブラジルやペルーなどの国々と比べて少ないため、統計としてのパーセンテージに意味を持たない場合もあったが、他諸国と比較するにあたり、同条件での資料として比べることができるよう統計として数値化した。13か国全体における統計のパーセンテージについては、小数点第一位（第二位を四捨五入）までの表示とした。国別の統計に関わるものは、回答者数の少ない国において数の整合性を考慮し、小数点第二位まで示した。

② アルゼンチン、キューバ、メキシコの3か国の数値について

この3か国調査結果については、詳細な数値のデータが不足している部分があり、報告書内においてその部分を「+ α」と記載した。

③ 世代の分類（質問④）

二世、三世、四世の判別は、客観的なルールを示したわけではなく、本人が何世だと思っているかが回答になるが、ここではアンケート票に「両親の世代が違う場合、例えば一方の親が一世でもう一方の親が二世の場合、本調査では本人を二世とみなす」という注意書きを添えた。実際の調査中でも「自分は何世か」という質問が少なからずあった。

④ 祖先の出身県（質問⑤）

自分の祖先の出身地を知っているかどうかを問う質問で、三世の場合は祖父母合わせて4人となるので、回答欄を4つ設けたが、二世にとっては2つしか必要ないこともあり、なぜ4つもあるのか、という質問を受けた。

当初、ブラジルの調査時に、父方か母方かどちらかが非日系の場合の記入欄がなく、混乱した経緯から、「非日系」の選択肢を用意したが、スペイン語での「非日系」を「No japones」と訳してしまったため、日系でありながら「日本の日本人ではない＝日系人は外国人」という意味にとらえられた可能性もある。

集団による計画的な移民がなかった国については、回答者は両親のどちらかのみが日系であるケースが大半を占め、父方と母方の両方を答える条件にあてはまる対象者が非常に少なかった。

⑤ 日本に親戚がいるかどうか（質問⑨）

単純に親戚がいるか否かの問いだが、ここでは就労や学業、研修などで一時的に日本に滞在している身近な親戚なのか、祖先としての血縁者なのかの区別はしていないため、どのように受け取ら

れたかは不明。人によってそれぞれに解釈された可能性がある。ここでは広く「血縁者」としておく。

⑥ 職業（質問⑪）

業種と職種や役職を回答してもらうように工夫したが、国によって日本とは職業区分が違ったり、職業意識の違いから呼び名が違ったりすることで、分類は困難を極めたが、全体の傾向をつかむため、いくらか意識のもとに分類した。

⑦ 言葉づかいの問題

上記③から⑤などにあてはまることで、日系社会には独特な言語体系が存在しているということで回答があいまいになったり、意味がわからなくなることがある。例えば、通常言葉として、ブラジルの日系社会で日系人のことを「ニホンジン」と言うのは普通で、それに相対する者として非日系の人たちを「ブラジル人」と呼び、非日系（não japones）という言葉はあまり使われない。「ニホンジン」はブラジルにおける人種としての呼び名で、本人たちもブラジル人であることはもちろん承知の上での用法である。ポルトガル語上で「日本の」と「日系の」という区別も難しい。また、そのような習慣がすべての国で同じわけではないので、文脈上でわかる場合が多いとはいえ、回答者に迷いや勘違いの生じる場面も多々あった。

⑧ 記述式自由回答欄について

自由に記述してもらった部分については、内容が複数の回答に相当するものを分類した。そのため、多くの項目で回答数が回答者数より多くなっている。

⑨ 質問の前提が現実と適合しなかった例

集団による移住がなかった国において、もともと「日系社会」というものが存在しない場合、日系団体が不在であったり、日系イベントなども行われていないため、それらに参加するかしないかの質問は、返答のしようがないものであり、それ自体に意味をなさないこともあった。

また、質問⑫の日本での就労を希望するかどうかという問いについては、ブラジルやペルーなど、デカセギブームがあった国では、日本での就労＝デカセギと考える傾向の強いが、そうでない国では、日本へデカセギに行くことはあまり現実的でないという反応で、後者の場合は、自分のキャリアの延長として日本で仕事をするという意味に捉えているという違いがある。

⑩ 調査対象者が少ない場合のグラフについて

回答者数が50人以下の国の分析については、詳細に分類すればするほど、統計としてのパーセンテージに意味付けがしにくく、グラフ自体から読み取れるものが少ない、または無理やり読むことで齟齬が増えるという障害があった。しかしながら、他の南米諸国との比較としてこれを表示しておくことは必要であると判断し、全てを図表化した。

⑪ 補足調査について

（１）新型コロナウイルス感染拡大についての質問

アルゼンチン、キューバ、メキシコ、ブラジルの調査時には、まだ感染は始まっておらず、9か国

については、調査票に新型コロナに関する質問が加えられたため、前出4か国について、2022年9月～10月に補足調査(オンライン)を行った。

しかしながら、調査時期によって環境は大きく変わったため、同条件下での質問になっていないことを付記しておく。

(2) 補足調査の結果と既存のデータとの関連

以前調査した回答者とは関係なく、新たに対象者を選出して、すべて同じ質問をした。結果抽出については、すべて同様に行ったが、既存の集計結果に同一人物が答えている可能性もあり、その重複を避けるため、データとしては新型コロナ関連の質問のみを独立させて抽出した。そのため、他の質問項目と回答者数に違いが出ている。

なお、新たな補足調査の結果が、以前のデータと異なっているかどうかを確認したところ、項目ごとのパーセンテージによる大きな差異は見られなかったもので、絶対数としての人数は変わるが、回答者数を基にしたパーセンテージとしては違いが出ないものと見ている。そのため、アルゼンチン、キューバ、メキシコの集計において統計のないものについては、一部補足調査の結果を利用したものもある。

Ⅲ. 結果と分析

質問票の順番に従って、調査結果を表、グラフで示していく。○つき数字太字部分が質問事項。
13か国全体の統計と、特筆すべきものについては国別で表した。

全体の参加者数は2,567人だが、質問項目によって、無回答部分や無効回答、または国によってデータが不足している場合などが含まれたため、回答者数は異なっている。

【1】基本データ

①居住している都市

各国国内さまざまな都市に居住しており、回答者が居住する都市は中南米で全250都市にのぼった。大都市のみでなく、また日系人の集住地のみでもなく、広く分布している。

ベネズエラは現在、国外に居住している日系人が多い。

【表2】 国別回答者数と居住都市数

国 名	回答者数	都市数
アルゼンチン	148人	6
ウルグアイ	21人	5 (うち外国 1)
エクアドル	18人	4
キューバ	114人	9
コロンビア	42人	9 (うち外国 1)
チリ	38人	13
ドミニカ共和国	23人	2
パラグアイ	111人	16
ブラジル	1,395人	144
ベネズエラ	25人	13 (うち外国 7)
ペルー	354人	11
ボリビア	108人	7
メキシコ	170人	11
合 計	2,567人	250都市

【回答者数 2,567人】

②年齢： () 歳

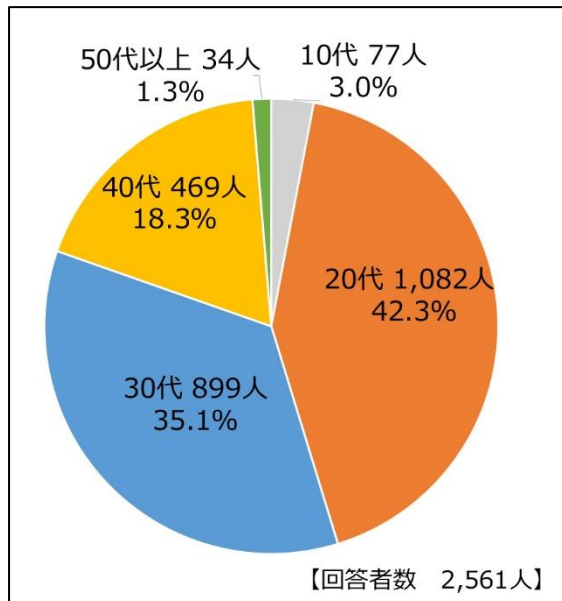
回答者全体の平均年齢は33.89歳。

20代と30代の若手層が約80%となった。国別で平均年齢が最も低かったのは、ボリビアで28.22歳、

高かったのはベネズエラで40.69歳。全体的に大きな偏りはなく、以降の調査結果としては主に20代、30代の声が反映されたと思われる。

【グラフ1】は、全体を年代別に分けたもの。

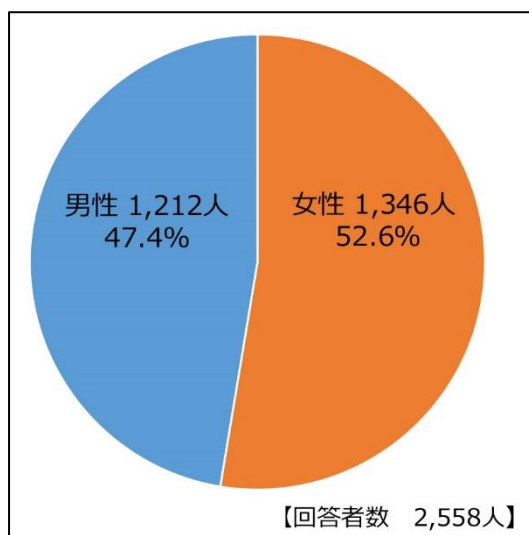
【グラフ1】年代別割合



③性別：(1)男性 (2)女性

女性が若干多いが、全体的にはおよそ半々となった。

【グラフ2】性別



④世代：(1)二世 (2)三世 (3)四世 (4)わからない (5)その他 何？()

この調査においては、全体的には三世がほぼ60%と中心世代になり、四世が約20%、二世がそれよりやや少なく、「その他」と回答した大半は五世（20代）だった。

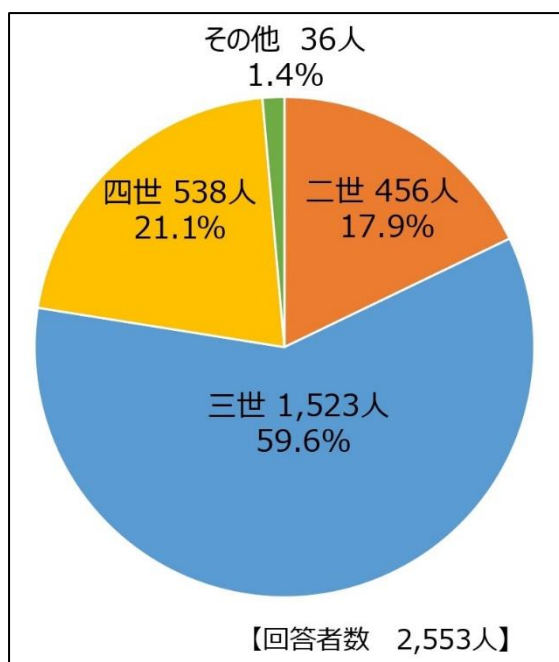
回答者の選出方法が任意であり自然に近いとはいえ、回答者は20代から40代の限定であり、必ずしも現実の世代構成比率にリンクするものではないことをふまえて、各国の移住の歴史や形態、その動機等を考慮すると、世代の進み具合の傾向としては、現実との間に極端な違いはないように思われる。中心世代や各世代の多寡に国ごとの違いが表れた。早くから移民・移住があったところは五世までが相当数存在しており、移民制度ではない自由渡航による移住者が大半を占める国、特に新しい移住者が中心のエクアドルやウルグアイでは二世がそれぞれ約90%、約80%と世代が新しい。二世が少ないのはキューバ、メキシコ、ペルーで10%を切っている。

メキシコ、キューバ、チリは四世が約半分を占め、世代が進んでいる。特に傾向として、計画的に移民政策が実施された国、アルゼンチン、パラグアイ、ブラジル、ペルー、ボリビアでは、三世が中心となっている。

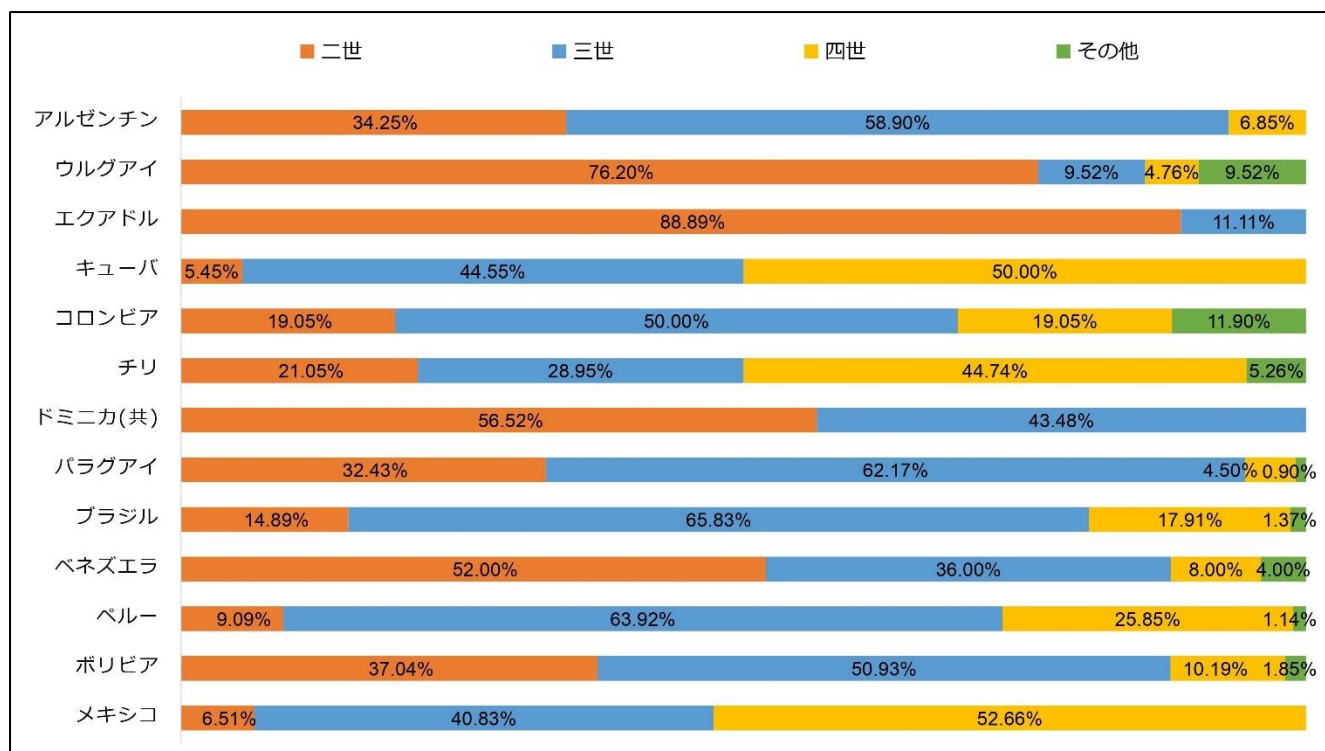
自身が何世であるか、その根拠はそれぞれ（母方から数える、父方から数える、あるいは古い世代から数える、新しい世代から数えるなど）だが、日系として何世かという認識は大半が持っている。

しかしながら、自分は何世か、と調査員に質問する場面もなかったわけではなく、混血化や世代間での婚姻、日本人との婚姻など、事情が多様化したため、かつてのように単純に何世かを答えること自体ができなくなっているのが現状である。

【グラフ3a】 世代の割合



【グラフ3b】 国別／世代の割合



⑤父方の曾祖父母または祖父母の出身県：

(1a) () 県 (1b) わからない (1c) 非日系 (No japones)

(2a) () 県 (2b) わからない (2c) 非日系 (No japones)

母方の曾祖父母または祖父母の出身県：

(3a) () 県 (3b) わからない (3c) 非日系 (No japones)

(4a) () 県 (4b) わからない (4c) 非日系 (No japones)

自分のルーツをどの程度把握しているかを問うもの。

回答数は、多い人で4つの県名を答えている（三世や四世で祖父母や曾祖父母の出身県がそれぞれ違う場合等）。

沖縄県が回答数の約30%を占めた。続いて7%前後で熊本、福岡、北海道と続く。絶対数の多いブラジル、ペルーの影響が強い。ペルーは、回答者354人による849の回答のうち77%が沖縄だった。

全体では約80%が、祖先の出身県を一つでも答えられている。日系人の絶対数が多い国の方が、回答率が低い傾向にある。

アルゼンチン、キューバ、ブラジル、メキシコを除く9か国、ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、チリ、ドミニカ共和国、パラグアイ、ベネズエラ、ペルー、ボリビアにおける当調査では、「非日系」の欄を設けたところ、672人中、父方か母方どちらか一方に「非日系」と入れた人は、144人で少なくとも21.4%は非日系の血統が入っていることだけは判明した。ただし、三世以降で父方母方両方に県名を記入できている場合、混血であっても「非日系」の欄にチェックを入れないケースがあるので、混血かそうでないかを見るには確実なデータではない。

血統を知る場合には、別の調査方法が必要なのことがわかった。

【表3a】祖先の出身県／県名別回答数と比率（多い順） ※父方・母方の合計

県名	有効回答数	県別比率
沖縄	1,117	28.19%
熊本	289	7.29%
福岡	280	7.07%
北海道	253	6.38%
広島	202	5.10%
福島	132	3.33%
長野	111	2.80%
鹿児島	106	2.67%
高知	96	2.42%
長崎	92	2.32%
山口	84	2.12%
静岡	83	2.09%
東京	75	1.89%
愛媛	61	1.54%
愛知	57	1.44%
山梨	56	1.41%
大阪	53	1.34%
和歌山	52	1.31%
山形	50	1.26%
新潟	50	1.26%
宮城	48	1.21%
岡山	46	1.16%
岩手	43	1.09%
神奈川	40	1.01%
岐阜	35	0.88%
千葉	34	0.86%
京都	34	0.86%
三重	32	0.81%
群馬	31	0.78%
秋田	29	0.73%
佐賀	28	0.71%
宮崎	25	0.63%
栃木	24	0.61%
徳島	21	0.53%
香川	21	0.53%
埼玉	20	0.50%

石川	19	0.48%
滋賀	17	0.43%
茨城	16	0.40%
鳥取	15	0.38%
青森	14	0.35%
富山	14	0.35%
兵庫	14	0.35%
福井	12	0.30%
大分	12	0.30%
奈良	11	0.28%
島根	9	0.23%
回答数	3,963	100%

【回答者数 1,735人】

【表3b】 国別／祖先の出身県名を答えられた割合と出身県上位5位まで】

国 名	一つでも答えられた人の数(人)	答えられた割合	出身県 1位	出身県 2位	出身県 3位	出身県 4位	出身県 5位
アルゼンチン	不明	不明	沖縄	広島	北海道	熊本	秋田
ウルグアイ	19	90.48%	高知	北海道	新潟	岐阜	徳島
エクアドル	17	94.44%	京都	長崎	東京	宮崎	栃木
キューバ	不明	不明	熊本	広島	沖縄	福岡	千葉
コロンビア	39	92.86%	京都	長崎	東京	宮崎	栃木
チリ	30	78.95%	北海道	東京	鹿児島	福島	茨城
ドミニカ共和国	21	91.30%	高知	福岡	福島	沖縄	秋田
パラグアイ	93	83.78%	高知	群馬	北海道	愛媛	岩手
ブラジル	1063	76.20%	沖縄	北海道	熊本	福岡	広島
ベネズエラ	21	84.00%	山梨	静岡	東京	石川	千葉
ペルー	339	95.76%	沖縄	熊本	山梨	広島	福岡
ボリビア	93	86.11%	長野	沖縄	福岡	北海道	鹿児島
メキシコ	不明	不明	福岡	長野	広島	滋賀	
回答数	(※1) 1,735	81.26%					

※1 全体の回答者数2,567人から詳細不明の3か国分の人数432人を差し引いた数

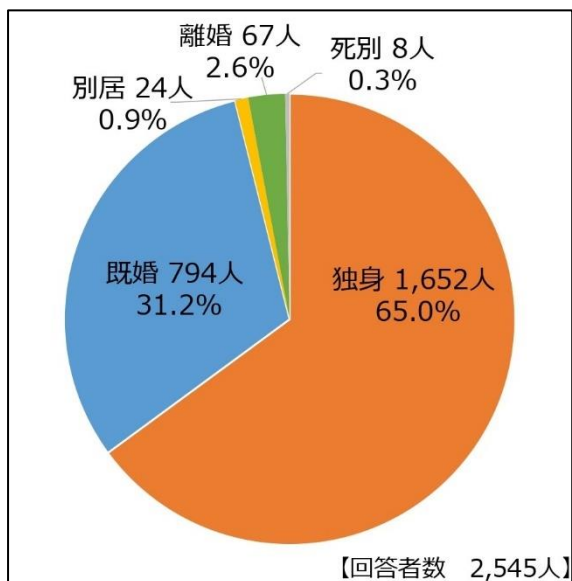
【回答者数 1,735人】

⑥ 配偶者の有無：

(1) 独身 (2) 既婚 (3) 配偶者死亡 (4) 別居 (5) 離婚

調査対象となった年齢層（平均33.89歳）での既婚者は、どの国でも約3分の1で、全体として晩婚傾向にある。

【グラフ4】 配偶者の有無



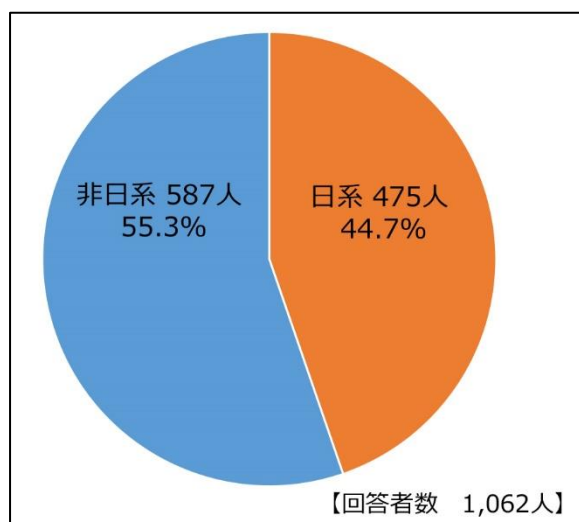
⑦パートナーは： (1) 日系 (2) 非日系

中南米13か国の若い人たちのパートナーは、全体の55.3%が非日系で半数以上を占めているが、移民制度があった国、また戦後の移民もあった国に関しては、パートナーが日系である割合が比較的高く50%以上の国が5か国ある。家族移民でなかったり、移住地が存在しなかった場合には、日系同士の婚姻は過去も現在も困難だという事情がある。

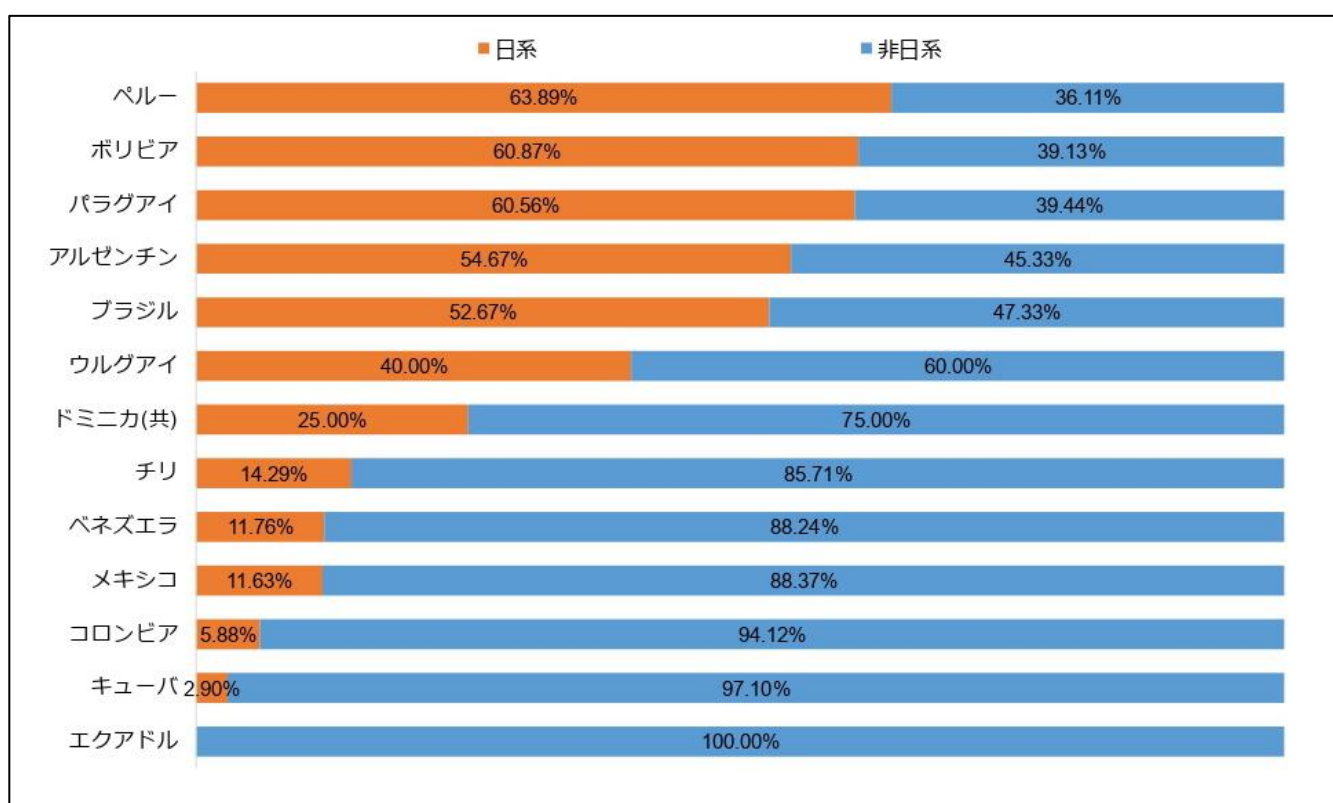
混血化が進んでいるということが強調される一方で、この調査においては現在も半数は日系同士のカップルが存在しており、急速な混血化だけが強調されるのは現実的でないと思われる。ただし、この日系には非日系の血統を含む人も含まれるため、混血でないということとはできない。

また、このような調査が行われる場合に、例えば非日系との婚姻関係がある日系が、配偶者に対しての遠慮（ある種の排他的意識を感じるなど）から調査への参加を控えるというような心理的作用が働くということがあるとすれば、違う結果も出る可能性はある。

【グラフ5a】 パートナーの日系・非日系



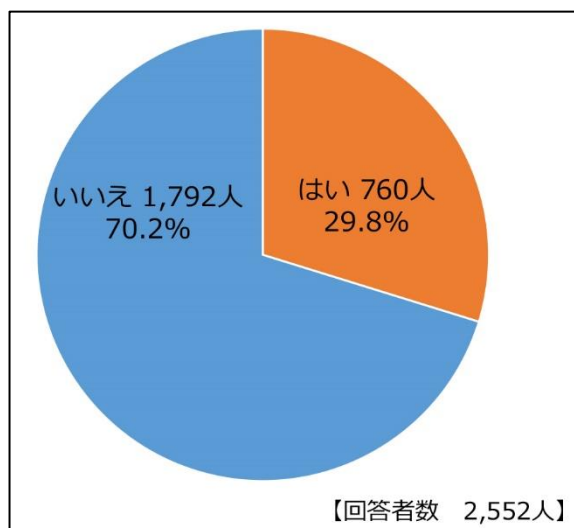
【グラフ5b】 国別／パートナーの日系・非日系の割合（日系の多い順）



⑧-a. 子どもはいますか？： (1)はい (2)いいえ

子どもがいる人の数は、既婚者の数とだいたい同じ。

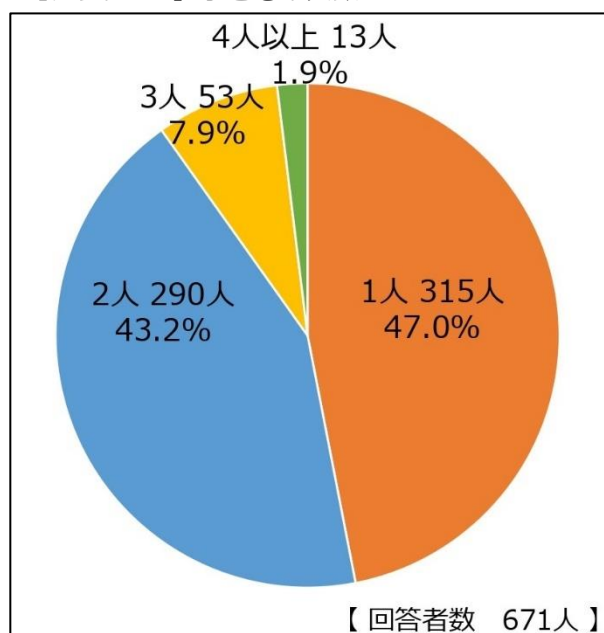
【グラフ 6 a】子どもの有無



⑧-b. 上のa. で「はい」の場合、子どもの人数は () 人

既婚者1人あたりの子どもの数は平均1.64人となり、少子の傾向にある。国ごとに多少ばらつきがあるが、1人が最も多く、1人か2人で90%を占めている。

【グラフ 6 b】子どもの人数

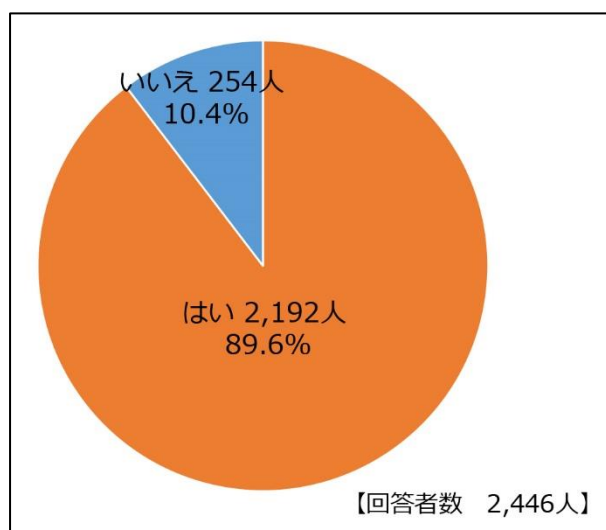


⑨日本に親戚がいますか？： (1)はい (2)いいえ

日本に親戚がいる、と答えた人たちが約90%で、大半が日本との直接的なつながりを持っていると思っている。最初の移住者が古いと思われるチリが極端に低く「いる」と答えたのは約60%以下。移民の歴史が古いほど親戚がいないと答えた人の割合は高い傾向にある。

デカセギが多い国（ブラジル、ペルーなど）については、「日本にいる親戚」の意味を、自国から行っている親戚と捉えている可能性もある。

【グラフ7】 日本に親戚がいるかどうか



【2】学 歴

⑩自国、日本、他の国で受けた義務教育及び高等教育、留学、研修歴、日本語学校等、修学／研修した場所にチェックを入れてください。

一般にどの国でも高学歴で、大学進学率は全体の平均で81.8%（日本、外国を含む）。最も高いのがチリの97.4%で、最も低いのはアルゼンチンの60.5%。大学院へ進学する割合も高く全体で29.1%となった（ポスグラ、修士課程、博士課程、専門コースを含む）。

日本への留学や研修を経験しているのは全体の15%弱。

なんらかの形で日本語学校に通ったり、日本語教育を受けたことのある人は約40%で、質問③においてその能力レベルの低いことは後に記すが、必ずしも日本語教育を受ける環境にない事情を含めて、学習する努力があることは認められる。パラグアイ、ボリビア、ウルグアイ、ドミニカ（共）は移住が比較的新しい国であり、日本語教育に熱心で環境が整っていると考えられ、質問③bの日本語能力試験の資格取得者も多い。

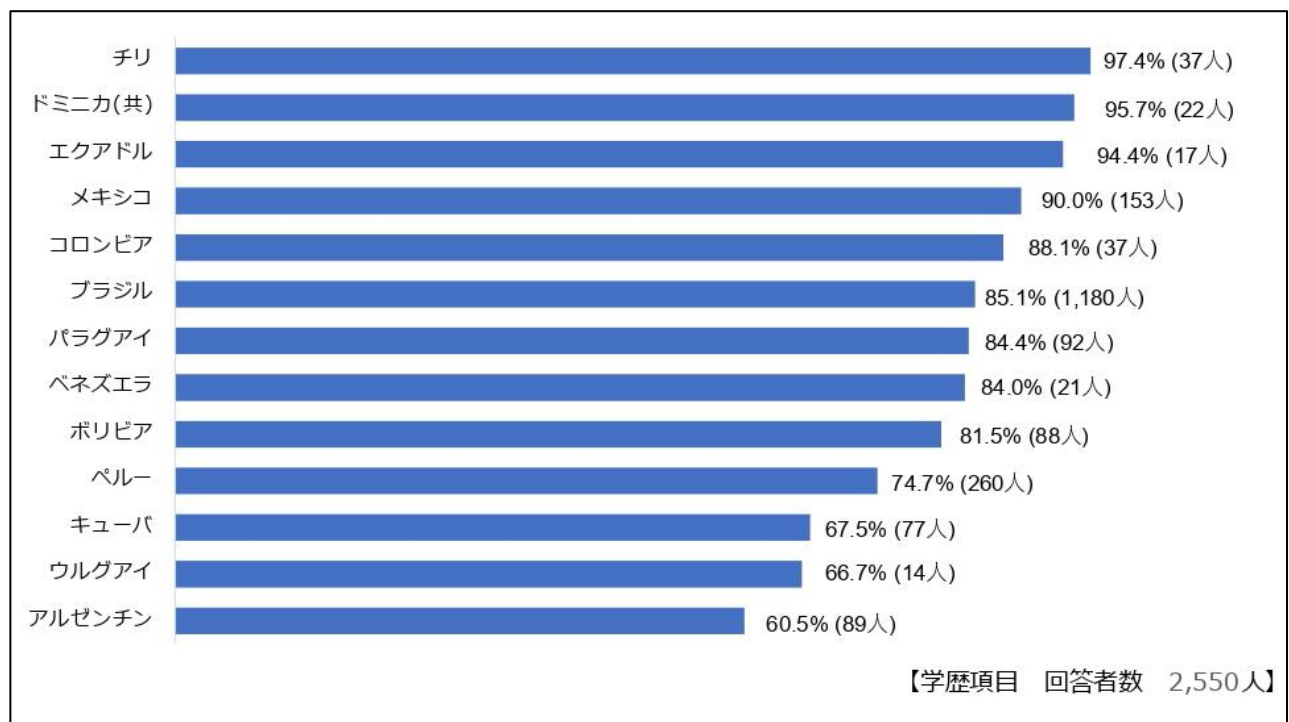
【表4】 学歴

修学／研修した場所	自国		日本		その他の国	
高校まで	268人	10.5%	88人	3.5%	5人	0.2%
専門学校	228人	8.9%	10人	0.4%	4人	0.2%
大学	2,033人	79.7%	15人	0.6%	44人	1.7%
大学院	615人	24.1%	36人	1.4%	61人	2.4%

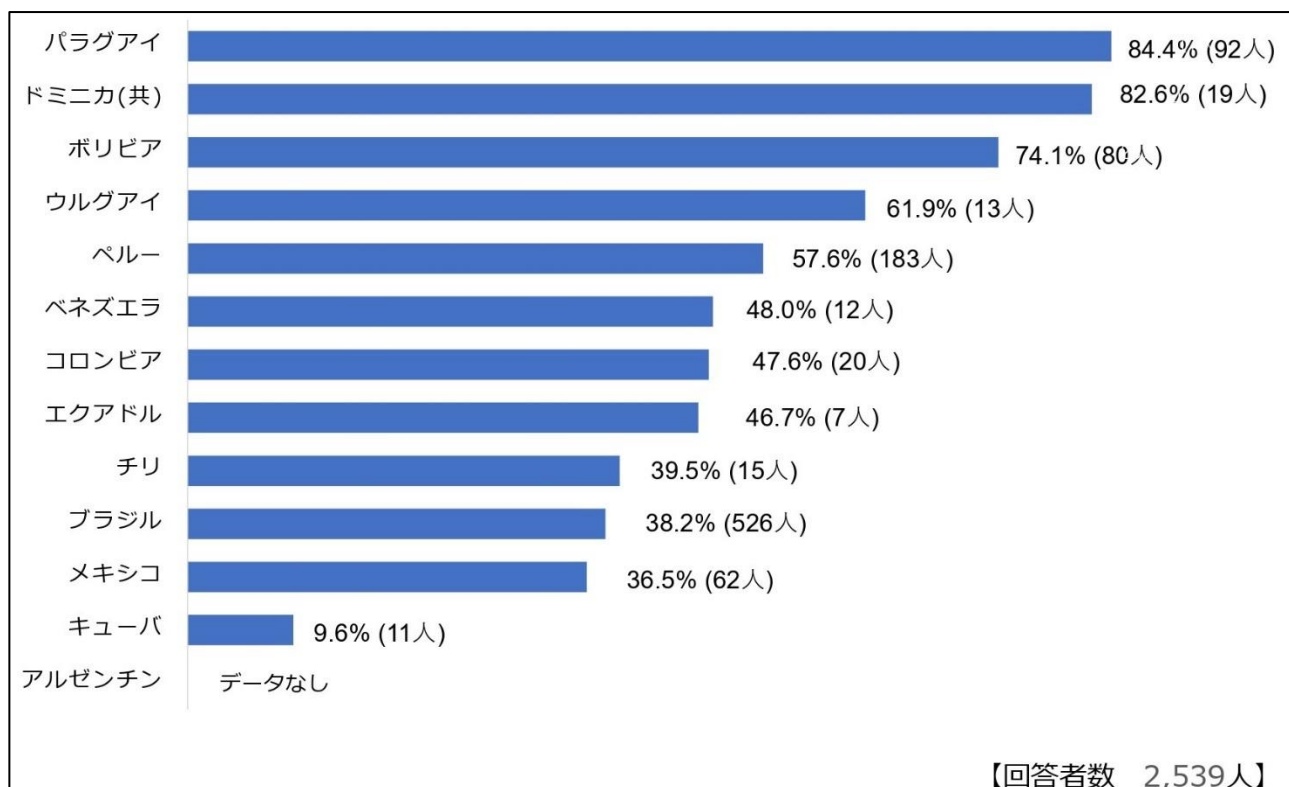
JICA研修	25人	1.0%	144人	5.6%	7人	0.3%
文科省国費	47人	1.8%	24人	0.9%	11人	0.4%
その他の奨学金／研修	292人	11.5%	212人	8.3%	96人	3.8%
日本語学校／日本語教室	1,040人	40.8%	136人	5.3%	20人	0.8%

【回答者数 2,550人】

【グラフ8a】 国別／大学進学率（多い順）



【グラフ8b】 国別／日本語学校等で日本語教育を受けた割合（多い順）



【3】職 歴

⑪自国、日本、他の国での最近3年の職業について、業種を選んで、職種・役職を記入してください。

業種を以下の11に分類し、該当するところに職種または役職を書き込んでもらった。業種の【表5a】と職種の【表6a】を合わせて見ることで、全体像がわかる。

商業が圧倒的に多く、約4分の1を占めている。続いて教育、工業、医療、IT関連が多い。日系人が広い分野で活躍していることが分かる。かつて多かった農業は、現在は5%にとどまり、日系人の中心的職業ではなくなった。職種としては、事務職、管理職が上位にあるので、会社員が多いと見られる。教育関連、医療従事者、エンジニア系の職についている人が多い。

日本での職歴としては、工業がトップとなり、職種を見ると作業員が大半となった。その他の国では商業が多い結果となった。

「13か国合計」の統計におけるメキシコに関しては、データ上の分類がはっきりしなかったため、補足調査による結果を加えたので、回答者数が若干少なくなっている。

学生は除いた。

【表5a】 自国での職歴における業種 （13か国合計）

業種	(人)
商業・サービス業	517
教育・研究	216
工業	200
医療・健康	154
情報処理・IT・通信	150
公務員	121
金融	103
農畜漁業	102
建築・不動産	87
アート	82
運輸	27
その他（※1）	158
不明（※2）	1,079
回答数	2,051

※1 その他＝団体職員、環境保全関連、主婦、ボランティア、など

※2 職種はわかるが、業種がわからないもの（事務員、アシスタントなど）

【表5b】 日本での職歴における業種 （11か国合計）

業種	(人)
工業	61
商業・サービス業	23
教育・研究	8
医療	4
農畜漁業	3
運輸	3
アート	3
建築・不動産	2
情報処理・IT・通信	1
公務員	1
その他	3
不明	6
回答数	118

【表5c】 その他の国での職歴における業種 （13か国合計）

業種	(人)
商業・サービス業	31

工業	14
教育・研究	11
医療	6
アート	6
情報処理・IT・通信	5
建築・不動産	2
公務員	2
金融	2
農畜漁業	1
その他	1
不明	3
回答数	84

【複数回答／回答者数 1,899人 + α】

【表6a】自国での職歴における職種・役職

職 種	(人)
事務職・補佐	314
教師・講師	183
管理職	172
販売・接客	152
IT	146
医師・医療従事者	140
技術専門家	117
電気・機械・建築技師	81
経営者	65
農畜漁業従事者	60
デザイナー	59
研修生・奨学生	57
アーティスト	43
弁護士	39
建築家	36
会計士	26
調査員	20
調理師	19
運転手	19
美容・健康	18
フリーランス	18
美容・健康	18
歯科医師	15

研究員	12
軍人・警察官	9
工芸美術家	9
翻訳・通訳	9
ジャーナリスト	8
写真家	6
作業員	1
アルバイト	1
その他	6
不明	254
合 計	2,114

【表6b】日本での職歴における職種・役職

職 種	(人)
作業員	58
事務職・補佐	10
販売・接客	7
アルバイト	6
教師・講師	5
管理職	5
教師・講師	5
調理師	4
医師・医療従事者	2
翻訳・通訳	3
アーティスト	3
研究員	3
弁護士	2
運転手	1
IT	1
技術専門家	1
不明	23
回答数	134

【表6c】その他の国での職歴における職種・役職

職 種	(人)
事務職・補佐	12
販売・接客	11
教師・講師	9

技術専門家	4
研修生・奨学生	3
経営者	3
調理師	3
管理職	3
IT	3
医師・医療従事者	3
電気・機械・建築技師	2
アーティスト	2
研究員	2
農畜漁業従事者	1
デザイナー	1
翻訳・通訳	1
写真家	1
工場勤務	1
不明	24
回答数	89

【複数回答／回答者数 1,637人 + a】

⑫-a. 日本での就労に関心がありますか？

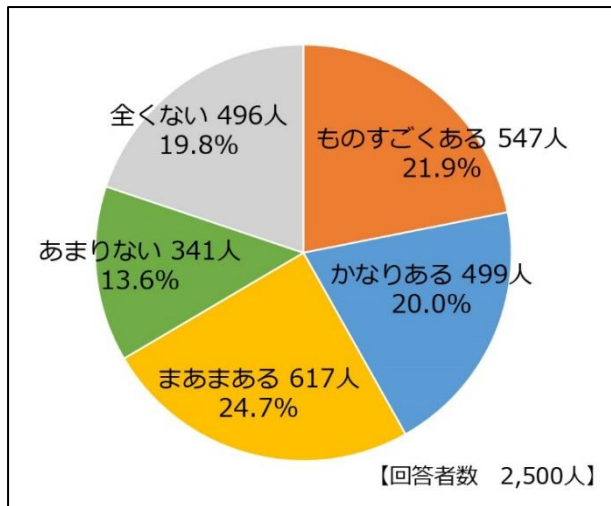
最低値を（1）、最高値を（5）として5段階から選んでください。

(1) 全くない (2) あまりない (3) まあまあある (4) かなりある (5) ものすごくある

デカセギが盛んな国では、「日本での就労」を「デカセギ」と捉えている傾向が強いが、そうでない国の場合は、あくまでも自分の専門分野での就労と捉えている。

どちらの意味で捉えているとしても、各国での関心は、年代や性別、学歴、日本滞在経験の有無などで調べてみた結果、特に偏りはなく、全体として興味を持っている人（「ものすごくある」、「かなりある」、「まあまあある」）が60～70%程度で、関心は高いといえる。「あまりない」、「全くない」と回答している人も一定数あり、自国でのキャリアがうまくいっているという見方もある。

【グラフ9】 日本での就労への興味



⑫-b. 日本で就労するとしたら、どんなエリアでの就労に興味がありますか？

質問⑪の回答と内容的にはほぼ一致し、自身の経歴に沿った業種・職種を選んだ人が多い。ブラジル、ペルーなどいわゆるデカセギが多い国の人たちが工業・製造業を選んでいる。

【表7】 日本での就労希望エリア

業種・職種	(人)	具体的な職業
工業・製造業	143 + α	工業デザイン、工場、工場現場、工場労働、製造業、車産業、自動車メーカ工場、自動車製品製造、整備士
IT関連	127 + α	IT、システムプログラミング、ITデベロッパー、ウェブデザイナー、コンピュータ関係、システムエンジニア、テクノロジー系、デジタルマーケティング、ハイテク、通信
医療関係	123 + α	医師、歯科、獣医、心理療法士、医療器具、高齢者介護、薬学、理学療法士、鍼灸、公共医療
アート関連	90 + α	アニメーション、グラフィック、デザイン、オーディオビジュアル、ビジュアルアート、ファッションモデル、ファッション関係、メイクアップ、写真、映画、芸術、服飾、服飾デザイナー、音楽、劇団、歌手、工芸、古典芸能
商業・サービス業	73 + α	商店、商売、おもてなし、カスタマーサービス、
特定しない・未定	73	なんでもよい、割がよくて楽な仕事、半日勤務
飲食関係	66 + α	グルメ、飲食業、食生活、調理、料理、和食、カフェ、ケーキショップ
教育	65 + α	外国語教師、幼稚園、教育、語学、幼児教育、日本語教師、司書、図書館
研究・研究室・大学関連	59	研究、研究者、大学研究職、地理学
経営者	58 + α	経営者、ベンチャー、スタートアップ
メディア	54 + α	広告代理店、広報メディア、マーケティング、テレビ、映画製作、出版、イベント企画
建築	53 + α	リフォーム、日本建築
国際ビジネス	46 + α	貿易、国際ビジネス

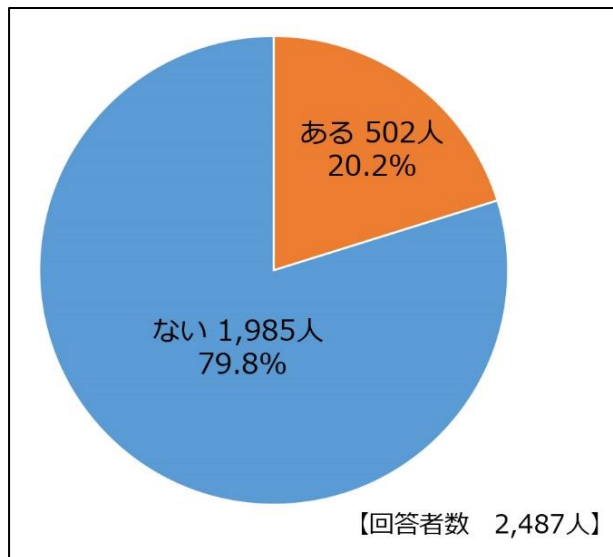
エンジニア	43 + a	エンジニア、専門技術
観光業	30 + a	ホテル業、観光、旅行会社
電子・電気工学系	21 + a	電子、電気工学系技師
通訳・翻訳	20 + a	通訳、翻訳
環境	17 + a	環境保護、環境保全
会計士	16 + a	会計士、会計事務所
農畜漁業	16 + a	花卉栽培、魚関係
ポップカルチャー関連	13 + a	アニメ声優、漫画、アニメ
スポーツ関連	12 + a	スポーツライター、監督、指導者
ゲーム関連	9	ゲーム関連
法律・弁護士	9 + a	弁護士事務所、法律関係
美容	8	エステシャン、美容院、美容師
アルバイト	7	フリーランサー、アルバイト
バイオロギー系	7	バイオロギー系技師
その他	63	福祉、文化交流、化学、金属工業、国際交流、農産物輸出、JICA、運輸、コンサルタント、リスクマネジメント、外交関連、外国人支援、企業家、技術、購買・営業、日本中南米間技術交流、品質管理、CA、NGO、サプライチェーン、スキルアップ、セキュリティ、ラテンアメリカコミュニティ支援、ロジスティクス、移民支援、科学研修、公務員、国際軍事問題、児童向け施設、政府外交、生産・加工、鉄鋼関係、道徳・倫理系、領事館、歴史
合計	1,321 + a	

【複数回答／回答者数 1,071人 + a】

⑬-a. 日本の労働やビジネス習慣等についての知識がありますか？： (1)はい (2) いいえ

「ある」と答えたのは20%にとどまり、日本のビジネス習慣としてはあまり知られていない。

【グラフ10】日本のビジネス習慣に関する知識



⑬-b. 上のa. で「ある」の場合、どんなことを知っていますか？

日本独特の習慣を意識した回答が得られた。

主に道徳的な側面、厳格さ、収入の良さ、長時間勤務や上下関係についての回答が多い。

【表8】日本のビジネス習慣、何を知っているか

内 容	(人)	具体的な内容
倫理・道徳、規律、就業態度などに関するもの	108 + α	責任、規律、モラル、秩序、配慮、まじめ、厳しい規則、正直、完璧主義、企業倫理、勤勉
労働体系に関するもの	48	終身雇用、自国と違う有給休暇制度、厳しい労働法・労働規定・雇用法、斡旋業者のルール、航空運賃は給与から支払う、同じ会社に長期間在籍する、休暇が少ない、正社員、派遣、アルバイト、トップが3年で入れ替わる、就職活動
給料体系に関するもの	34	深夜手当、単純作業で高/中程度の収入が得られる、時間給、高い賃金、評価と関係なく年齢の高い人の給与が多い、ドル建て給与
その他のキーワード		
時間厳守	27 + α	時間を守る
残業	27	残業、残業時間の削減
長時間勤務	25	長時間労働、過剰勤務
工場労働	21 + α	工場勤務、ライン、組み立て、製造プロセス、自動車工場、シフト、安全
整理整頓	16 + α	5S、6S、掃除
上下関係	16 + α	仕事では階級が厳しい、先輩後輩関係、年功序列
福利厚生	12	社会保険、年金、失業保険、年金は日本人のみで派遣社員には受給の権利がない
トヨタ式	8	カイゼン、ジャストインタイム、トヨタカンバン
チームワーク	7	協力体制、チームワーク

効率	6	
品質管理	6 + a	
ラジオ体操	5	
ほうれんそう	5	
その他	57 + a	個人がない、お弁当屋、飲み会、委託業務、回覧、迅速、朝礼、会議が多い、会議が長い妊娠、出産に無理解、販売員はロボットのように愛想がよい、お客様は一番です、稟議書、いじめ、ノルマ等
合計	427 + a	

【複数回答／回答者数 261人 + a】

⑭知っている日本企業をあげてください。（枠3つ）

5人以上が回答した企業名を以下にリストアップした。世界的なメーカー名がトップに上がった。他に地元にある日本の企業、日本での就労先であった企業名など、545企業名が挙がり、うち回答した人が1人しかいなかった企業名が353社となり、かなり細かい結果となった。

データがはっきりしている10か国で回答したのは1,345人で、1人当たり2.7社を回答している。その一方、37%にあたる790人がひとつの企業も回答できなかった。特にキューバは70%が未回答となった。

【表9】知っている日本企業

企業名	(人)
トヨタ	761 + a
ホンダ	440 + a
ソニー	338 + a
三菱	242 + a
日産	226 + a
任天堂	115 + a
スズキ	61
パナソニック	53 + a
東芝	50 + a
ヤマハ	50 + a
味の素	45 + a
ユニクロ	38 + a
三井	37 + a
キャノン	37 + a
資生堂	32 + a
村田	30
ダイソー	30
スバル	30
明治	18

ソフトバンク	18
日清	16
日立	15 + a
ニコン	15
ドコモ	15
ミズノ	14 + a
JICA	14
デンソー	13
麒麟	12
マツダ	12 + a
NEC	12
富士通	11 + a
ヤクルト	10
NGK	10
住友	9 + a
サンヨー	9
グリコ	9
アイシン	9
NHK	9
楽天	8
ロッテ	8
アシックス	8
森永	7
サンリオ	7
イチバン	7
無印良品／Muji	6 + a
ビオレ	6
古川	6
倉敷	5
丸紅	5
かねひで 沖縄	5
Sakura	5
JAL	5
その他	690 + a
回答数	3,637 + a

【回答者数 1,532人 + a】

⑮日本でどの町に住んでみたいですか？

東京が圧倒的な数となり、祖先の出身地としてトップになった沖縄が続く。県名、市町村名などばらついているが、75の地名が挙がった。

大都市を中心に、自身のルーツとなる土地（質問⑤）や中南米出身者が集住している地域が目立つ。

なお、この質問はブラジルのデータが不足しているため、回答者数が少ない。

【表10】住んでみたい日本の町

地名	(人)
東京	232
沖縄	115
横浜	65
大阪	56
京都	54
神奈川	31
どこでもよい	25
埼玉	18
福岡	17
名古屋	16
広島	15
北海道	13
札幌	11
千葉	10
静岡	9
滋賀	8
那覇	8
九州	7
東北	5
神戸	5
高知	5
鹿児島	5
わからない	4
群馬	4
浜松	4
長野	3
成田	3
御殿場	3
愛知	3
川崎	3

和歌山	3
長崎	3
伊勢崎	2
青森	2
福島	2
鎌倉	2
沼津	2
山梨	2
奈良	2
三重	2
日本に住みたくない	1
状況による	1
人口の少ない町	1
函館	1
岩手	1
茨城	1
宮城	1
岐阜	1
金沢	1
軽井沢	1
新潟	1
山形	1
栃木	1
岡山	1
山口	1
宮島	1
宮崎	1
熊本	1
佐賀	1
博多	1
茅ヶ崎	1
関東	1
甲府	1
秋葉原	1
渋谷	1
小牧	1
松山	1
浅草	1
相川	1
大津	1
竹原	1

中部	1
藤枝	1
豊橋	1
練馬	1
回答数	814

【複数回答／回答者数 817人 + α】

【４】日系団体への参加

⑩自分が日系（Nikkei）であるという意識はありますか？：

最低値0を（１）、最高値を（５）として５段階から選んでください。

（１）全くない （２）あまりない （３）まあまあある （４）かなりある （５）ものすごくある

「ものすごくある」が約半数で、「かなりある」「まあまあある」を合わせると90%近くが肯定的であり、全体の傾向としては日系意識を持つ人が多い。その反面、「あまりない」「全くない」も一定数あり、意識の多様化がみられる。

【グラフ10b】は「ものすごくある」の多い国順に並べたグラフ。かなりの差が出た。

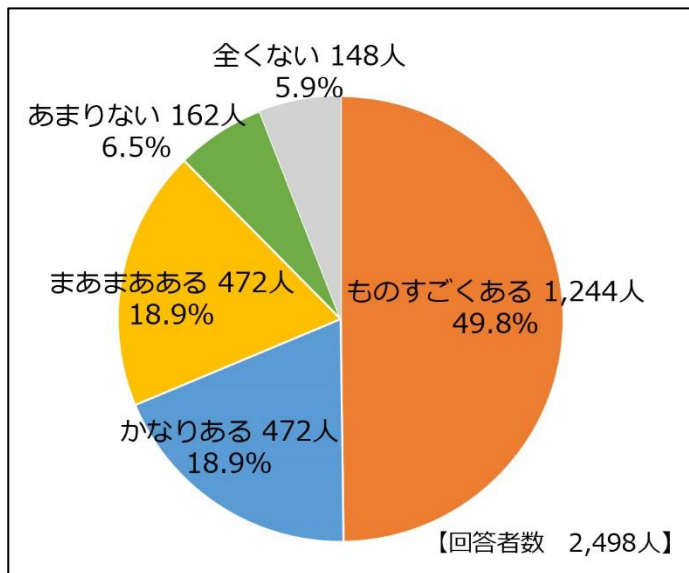
アルゼンチン、メキシコ、ブラジルが低い、「かなりある」「まあまあある」を加えると、やや足並みが揃う。

ブラジルが最下位になっているのは、ブラジルには日系コミュニティがありそれが当たり前の世界であるため、殊更日系意識を強調する必要もなく、また特別に目立つ存在でもないという意識から、そのような回答になっている可能性が高い。居住環境において日系人の存在が珍しい場合と珍しくない場合で、非日系人の中での生活における存在感などの違いから、意識も違ってくることがあるようである。

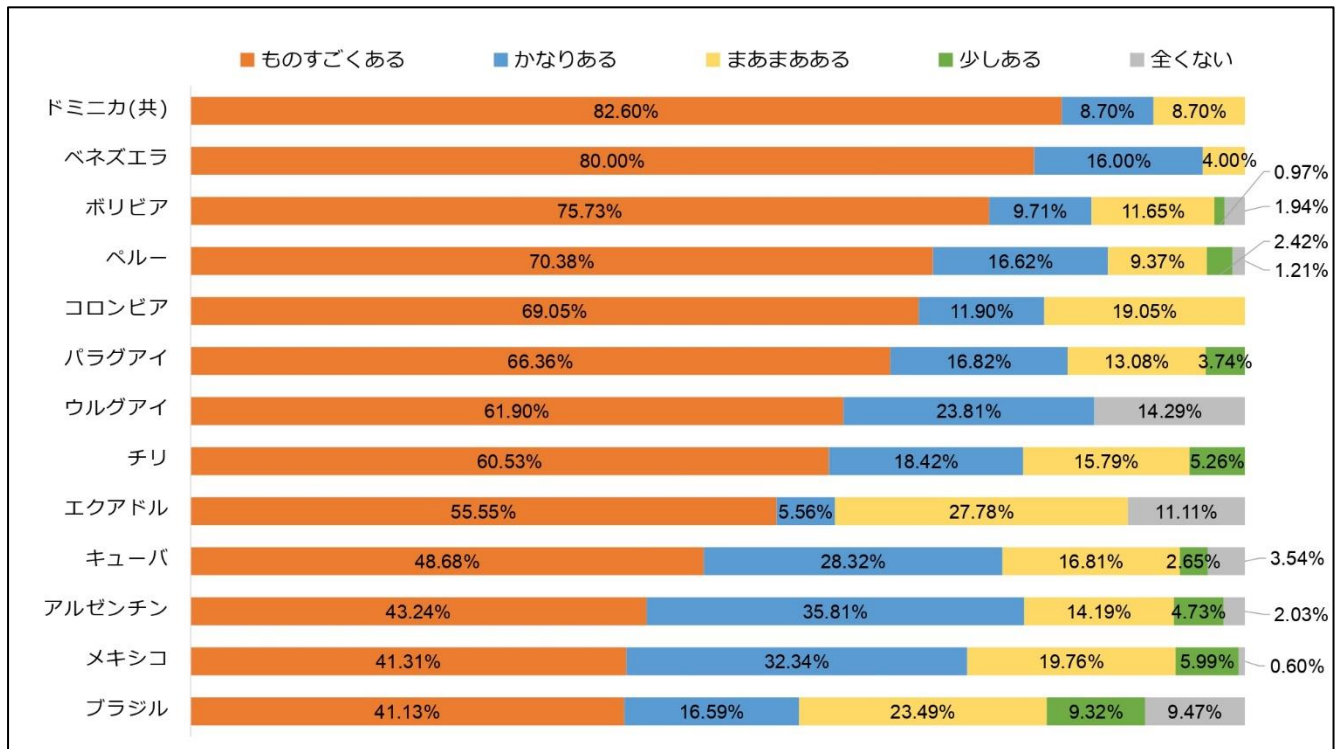
多くの場合には、一般論として「日系意識」＝「日系人であるという自覚」という意味に捉えていられると考えられるが、実は根本的な問題として、各自が「日系（Nikkei）」という言葉はどう理解しているかによって、回答の質が変わることがある。例えば、「自分は日本人の両親の元に生まれたのだから、日系人ではなく日本人だ」という意識がある場合に、「全くない」を選ぶケースがある。

この問いについては、前提に「日系とは何か」の定義が必要だとも考えられる。

【グラフ11a】日系意識



【グラフ11b】国別／日系意識（「ものすごくある」割合の多い順）



⑰居住地またはその周辺で日系人（Nikkei）を見かけることはありますか？：

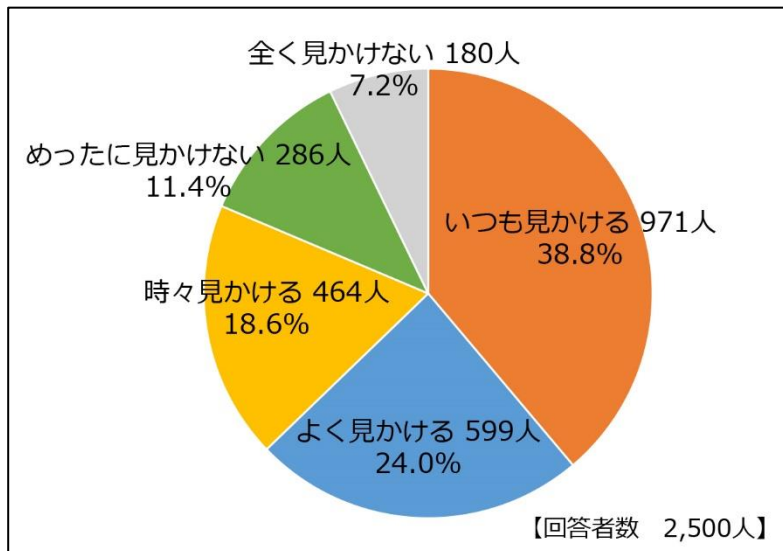
- (1) 全く見かけない (2) めったに見かけない (3) 時々見かける (4) よく見かける
(5) いつも見かける

全体では、「時々見かける」から「いつも見かける」までが80%を超えており、多くの地域で日系人が特段珍しい存在ではない環境にあり、残りの20%弱は、日系人のきわめて珍しい地域に居住し

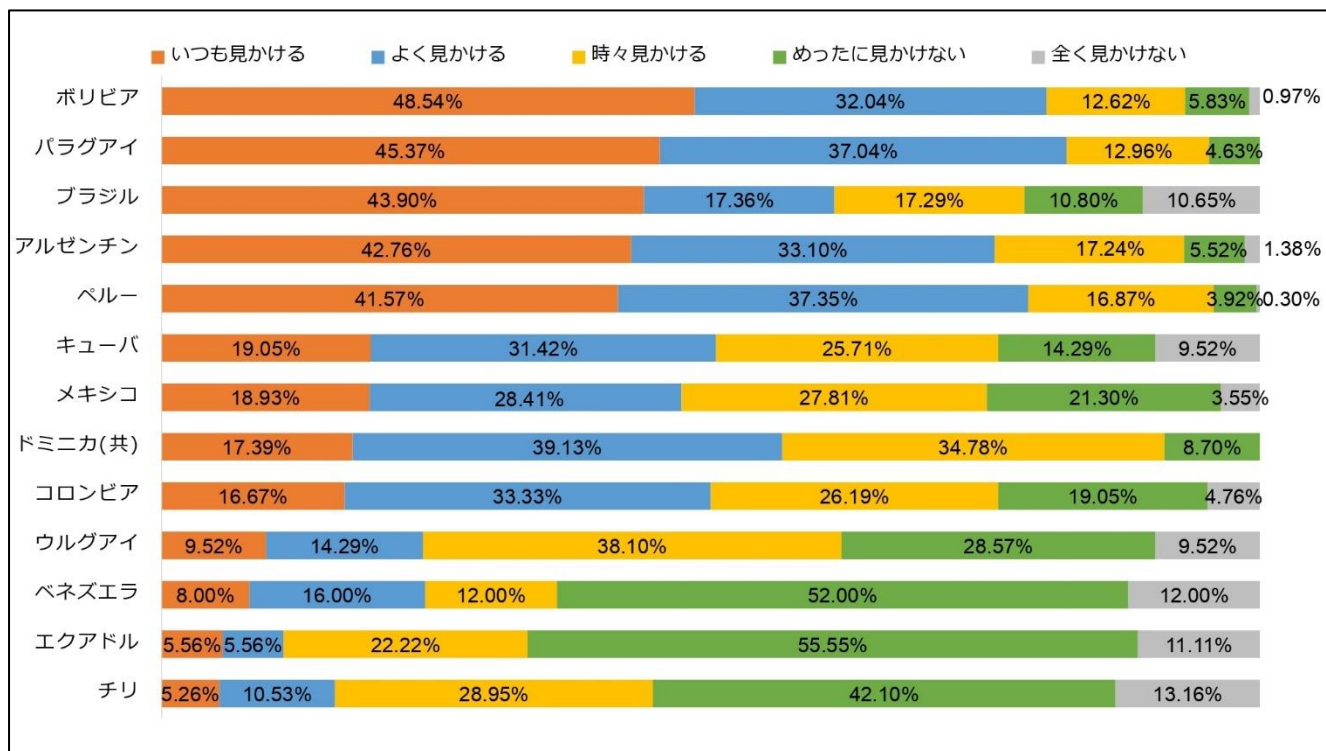
ているということになる。

【グラフ11b】で、どの国が日系人との生活があるのかを示した。ボリビア、パラグアイ、ブラジル、アルゼンチン、ペルーの5か国が「いつも見かける」で40%以上となっている。移民の国とそうでない国がはっきりわかれた。

【グラフ12a】 身近で日系人を見かけるか



【グラフ12b】 国別／身近で日系人を見かけるか



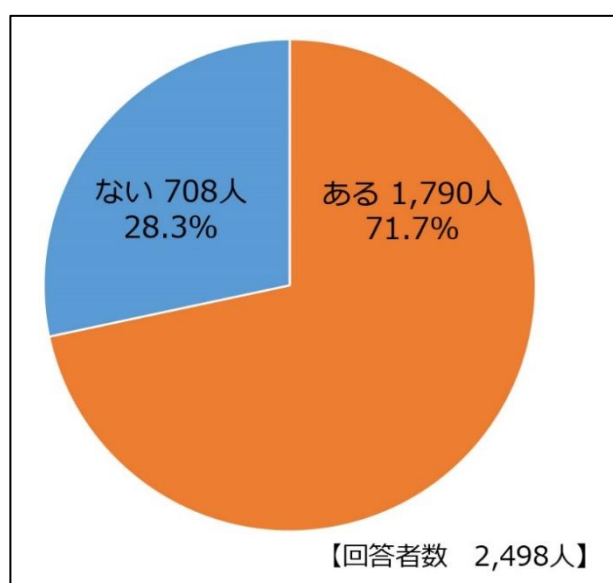
⑩-a. 居住地または活動地区に日系団体はありますか？： (1)はい (2)いいえ

全体の70%強が自身の周囲に日系団体があると答えている。前項目で、80%強が自身の居住地で日系人を見かけると回答しており、居住地域が250都市という広範囲にわたっている（質問①）という現実から考えると、環境として日系団体がある割合は高いと思われる。

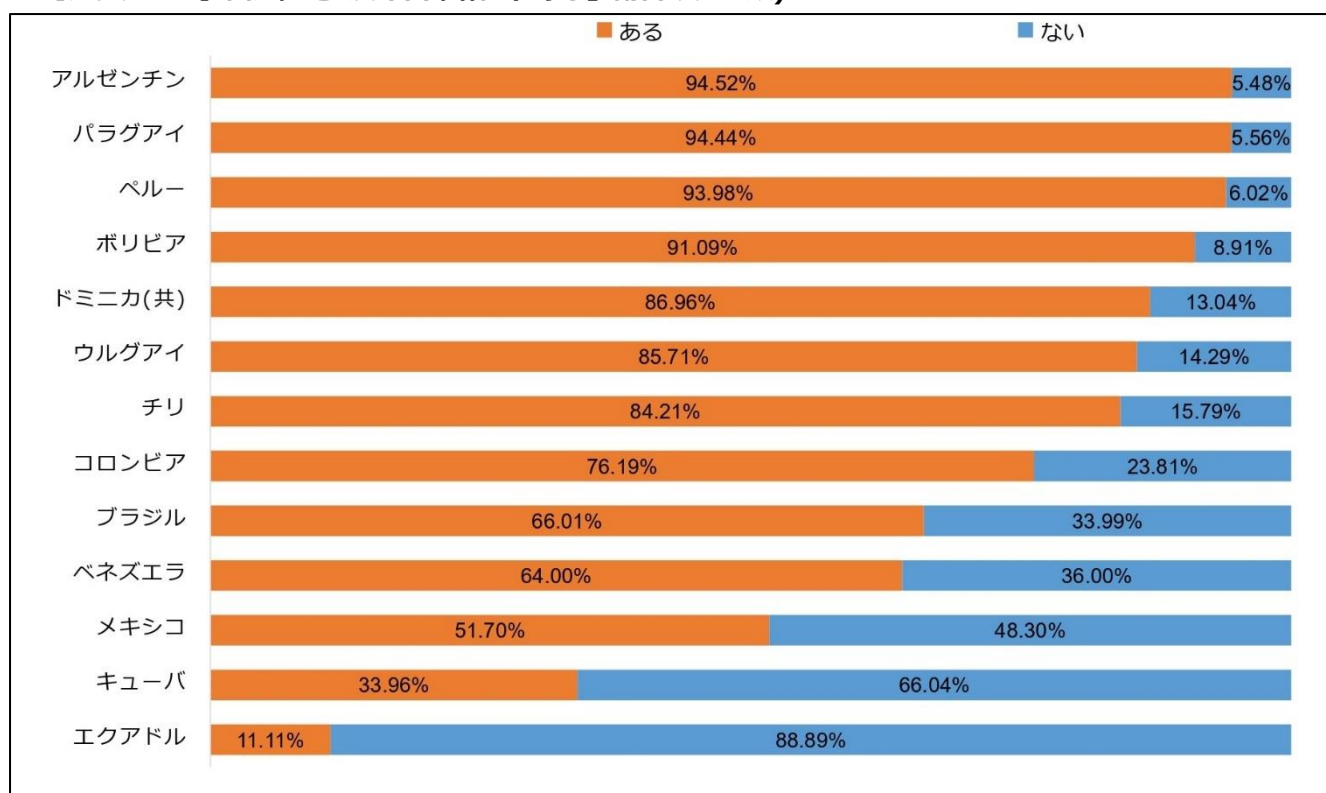
アルゼンチン、パラグアイ、ペルー、ボリビアの4か国は、90%以上の人が「日系団体がある」と答えている。

アルゼンチンやペルーは日系団体の所在する首都に居住している人が多いためと思われる、パラグアイは日系人の集住地各地に団体があるため、身近な存在となっている。日系団体が最も多いブラジルで66%と低めなのは、より広い地域に日系人が散在していることもひとつの要因になっていると思われる。

【グラフ13a】 地域の日系団体



【グラフ13b】 国別／地域の日系団体（「ある」割合の多い順）



⑩-b. 上のa. で「はい」の場合、どんな機関ですか？

主要な日系団体が挙げられており、多くの分野に日系の団体がある。ブラジルの場合は町自身が日系コミュニティであると考えている人たちがかなりいる（逆に団体自体を「コミュニティ」と表現している場合も多い）。日系人であることを、集まる基本的な動機としている文化協会や日系人協会等を記した人が回答全体の半分で、それらを日系社会の代表的存在であると認めていると思われる。

【表11】 どんな日系機関があるか

団体の種類	(人)	具体的な団体
文化協会、日系人会、日本人会	829 + a	文化協会、日系人協会、日本人会、連合、文化センター、コモレビ会、友愛会、女性の会、友の会
県人会	186 + a	沖縄県人会、福岡県人会、鹿児島県人会、村会、町会、市会
スポーツ関係	159	クラブ、野球
学校、日本語学校	111 + a	日本人学校、補習校、学校、日墨学院
家族、親戚、隣人、移住地、地域	110	コロニア、コミュニティ（トメアスー、イボチ市、パラ州内陸部、ラーモス移住地、沖縄）、町（バストス、ペレイラバレット）、カンボグランデ市沖縄そば市場、日系、移民、子孫、家族、親戚、弓場農場、集合住宅地、商業、レストラン、リベルダーデ区、セントロ、Eletrjaponesa（電気屋）
宗教関係	55	修養団、創価学会、天理教
文化、趣味関係	53	カラオケ、ダンス、舞踊、太鼓、よさこい、ボーイスカウト、歌謡、サークル、図書館、仲良し文庫、琉球太鼓、民謡

組合	50	花卉協会、農業組合
青年会	47	日系ネットワーク、青年実業家連絡協議会、リーダー会、勉強会、交流会
企業関係	16	企業団体、商工会議所、日系企業ネットワーク
医療関係	12	福祉援護協会、高齢者施設、病院、医院
大学、留学生OB会	10	JICA OB会、学生寮OB会
日本の機関	7	JICA、国際交流基金
イベント	6	ナツボン、フェスティバル、日本祭り、イベント
大学関係	6	学生寮、大学研究室、大学生グループ
すべて	1	
その他	1	
回答数	1,659 + a	

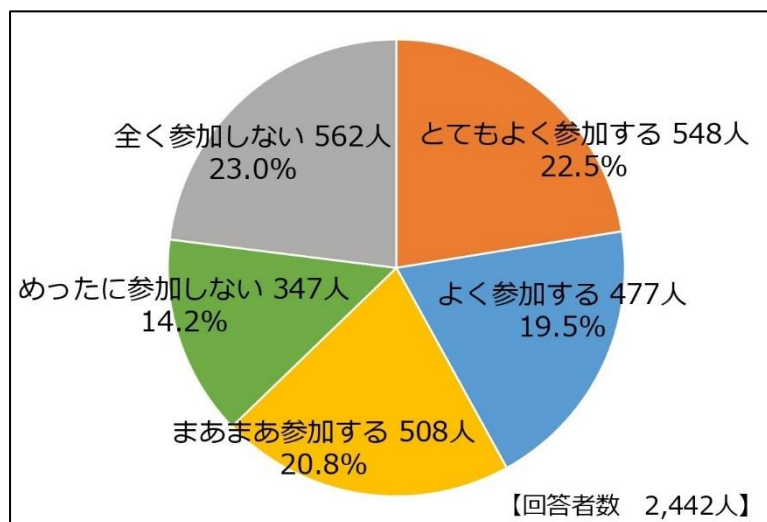
【複数回答／回答者数 1,082人 + a】

①9-a. 日系の活動や日系の集まりに参加しますか？：

- (1) 全く参加しない (2) めったに参加しない (3) まあまあ参加する (4) よく参加する
(5) とてもよく参加する

「まあまあ参加する」から「とてもよく参加する」までを合わせると60%強となる。質問①8で全回答者の約30%が居住地近辺に日系団体がないと回答しているので、参加できる場合にはほとんどの人が日系を軸とした何らかの集まりには参加していると見ることができる。

【グラフ14】日系の活動への参加



①9-b. 参加する場合、積極的に参加しているのはどの日系団体ですか？

①9-の質問（日系の活動に参加するか）からの文脈から「積極的に参加する」ものにイベントを挙

げる人が多くいた。

青年会、日系ネットワーク、青年ユニオンなど、若い日系人の集まりへの参加が10%程度ある。

【表12】積極的に参加する日系団体

団体の種類	(人)	具体的な団体
イベント、祭り、行事	524 + α	まつり、頼母氏、アニモ、バザー、運動会、新年会、忘年会、カラオケ、お話大会、フェスティバル、ボランティア活動、レジャー、慰霊祭、移民120年祭、映画フォーラム、花まつり、花火、敬老会、行事、七夕、篠笛、食事、成人式、日本祭り、大使館主催のイベント、年始イベント、発表会、豊年祭、盆踊り、民族伝統舞踊、料理教室
文化協会、日系人会、日本人会	299 + α	婦人部、会議、日系人協会、連合、日本庭園、文化ハウス
スポーツ関係	259	スポーツ大会、スポーツクラブ、ソフトボール、合気道道場、野球
文化、趣味関係	176 + α	歌、着物着付け、ボーイスカウト、手芸、工芸、太鼓、談話会、茶道、哲学勉強会、陶芸、和太鼓、琉球太鼓、勉強会
県人会、村会、町会、市会	155 + α	鹿児島県人会、沖縄県人会
青年会	149 + α	青年会、交流会、青年ユニオン、日系ネットワーク
学校、日本語学校	76 + α	日本語教室、補習校、日亜学園、日墨学院、柄本協会、江戸村協会、日墨協会チャバス支部、日亜文化センター
宗教関係	43	創価学会
家族、親戚、隣人、移住地	37	セントロ、リベルダーデ区、移住地、家族、商業、日系人の集まり、日系人の友達、日系人ファミリーとの付き合い、別荘、友人
留学生会	13	留学生OB会
企業関係	7	会社、起業家団体、商工会議所
組合	6	農業組合
日本の機関	6	JICA、大使館、国際交流基金
医療関係	1	日系医師会
その他	1 + α	青少年サークル、大学生センター
回答数	1,752 + α	

【複数回答／回答者数 1,349人 + α】

⑱-c. 参加しない場合、理由は何ですか？

主な理由を分類してみた。「時間がない」という消極的理由に続き、「縁がない」という機会の不足が多い。心理的な距離感として「興味がない」は10%強。「日系人が少ない」や「遠い」、実際の「活動がない」などの物理的要因は合わせて約20%となる。

【表13】 参加しない理由（10か国）

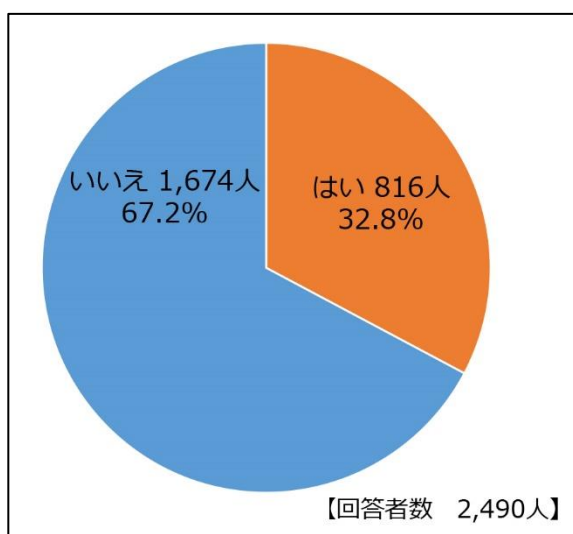
主な理由	(人)	具体的な理由
時間がない	178 + a	時間がない、余裕がない、仕事を中心
縁がない	151 + a	機会、きっかけがなかった、招待されない、誘われない、情報がない、付き合いがない、知り合いがいない、仏教関係の活動しかない、日系社会とは距離感がある、親が参加しなかった、親から日系社会のことを聞いていない、日系団体を知らない
興味がない	64 + a	関心がない、日系人としての帰属意識がない、若者向けの活動がない、疎遠になった、他の優先事項がある、いい印象がない
日系人が少ない	38	日系人が少ない
遠い、距離がある	37	学業や仕事で別の町に住んでいる、普段外国にいる
個人的理由	33	会員でない、家族が第一、引っ越ししてきたばかり、出不精、恥ずかしい、新型コロナ、人出が多い、世代差、生活スタイルの変化、勉学が先、日本国籍を取得していない
活動がない	31	活動が少ない、活動情報がない
経済的理由	7	失業した、金銭的理由、入会費が負担
参加したい	5	今後参加したい
わからない	3	わからない、考えたことがない
その他	3	子どもたちに伝承する、子どもの学校のイベントのみ参加する、伝統的
回答数	550 + a	

【記述式／回答者数 526人 + a】

㊫-a. 日系団体の役職についていた、またはついていますか？： （1）はい （2）いいえ

役職経験者は30%強で、現行、実際の役員は60代以降の割合が高く、この世代ではまだ少ない。

【グラフ15】 日系団体の役職についているか



⑩-b. 「はい」の場合、何ですか？

団体の役職経験者からは、「役員のなり手がない」というぼやきが多い。

アルゼンチン、キューバ、メキシコ、ブラジルのデータが不足しているため、回答数が少ない。

【表14】日系団体での役職（9か国）

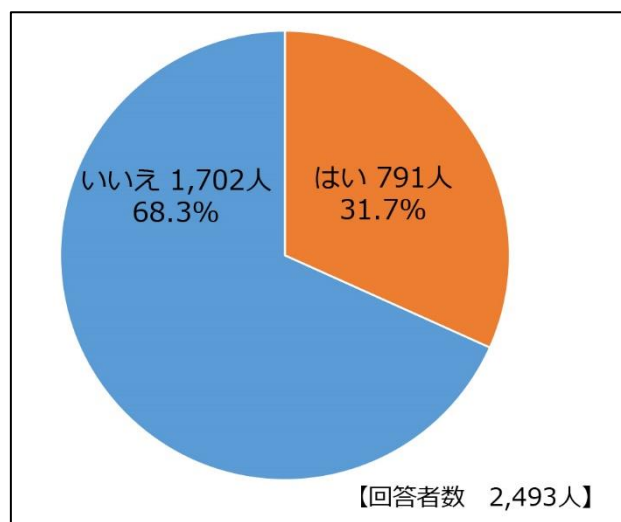
役職の種類	回答者数	役職名
執行部	85 + α	理事、会長、副会長部長、会計、財務、監査、役員
青年部	36	責任者、管理者
代表	22	青年会
事務局	7	事務局長
ボランティア	7	スタッフ、コーディネーター
創立メンバー	4	創立会員
実行委員会	3	委員
婦人部	2	婦人部役員
会員	2	メンバー
校長	1	
地方連絡員	1	
その他	40	セントロ、スポーツ、クラブ、カラオケ、陸上協会、OB会等
回答数	210 + α	

【複数回答、回答者数 191人 + α】

⑪-a. 日本国大使館が実施している事業を知っていますか？： (1) はい (2) いいえ

日本国の事業として実施されているものへの認識があるかどうかの問い。「知っている」と回答した人は、30%強とあまり多くはない。

【グラフ16】大使館の実施事業を知っているか

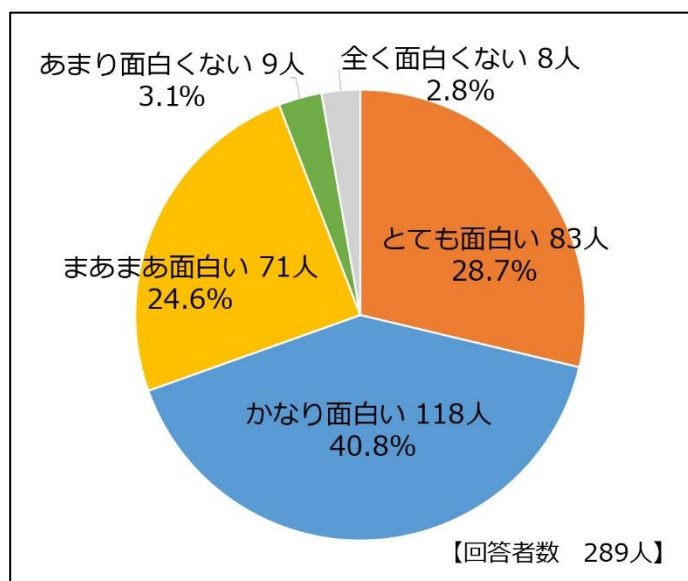


②1-b. 「はい」の場合、5段階で評価してください。:

- (1) 全く面白くない (2) あまり面白くない (3) まあまあ面白い
(4) かなり面白い (5) とても面白い

「まあまあ面白い」から「とても面白い」までの高評価で94.1%を占めた。「全く面白くない」と「あまり面白くない」は17人のみ。回答者が289人しかいないので、実際に大使館事業を知っている人が多くないのが実情だと思われる。

【グラフ17】大使館事業への評価

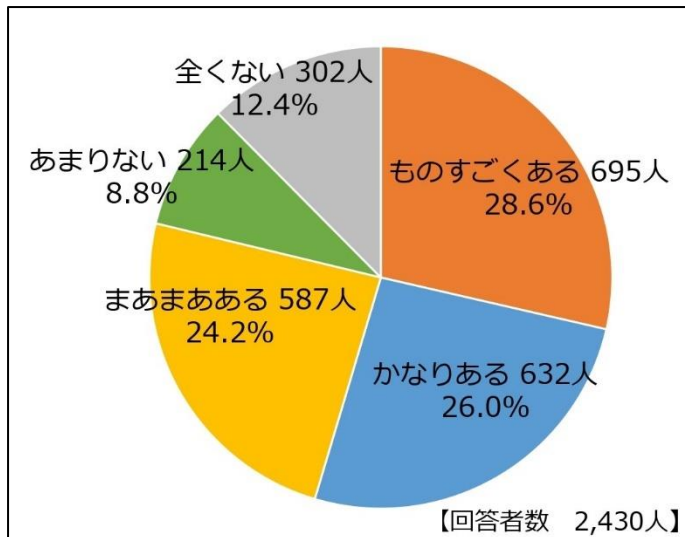


②2 地元または地域の日系行事に非日系人の参加はありますか？:

- (1) 全くない (2) あまりない (3) まあまあある (4) かなりある (5) ものすごくある

「まあまあある」から「ものすごくある」まで82.9%の人たちが非日系人の参加を認識している。どの国においても日系のイベントの人気の高いことを示している。「全くない」には、そもそも行事がないので参加できないことが含まれていると思われる。

【グラフ18】日系行事への非日系人の参加

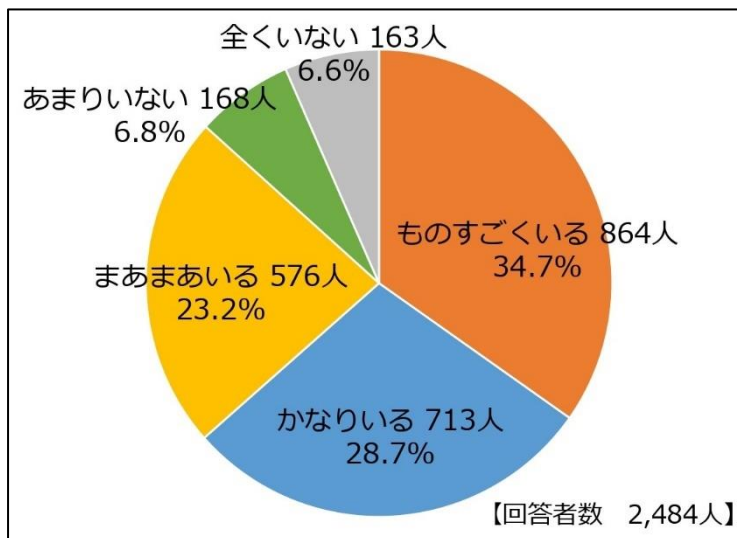


㊤日本のことに興味がある非日系人の友人、知人はいますか？：

(1) 全くいない (2) あまりいない (3) まあまあいる (4) かなりいる (5) ものすごくいる

42人中、「全くいない」1人と「あまりいない」1人を除き、ほとんどの人が、周囲に日本に関心がある非日系人がいると答えている。日系人に影響される非日系人も多いと想像される。

【グラフ19】日本に興味のある非日系人

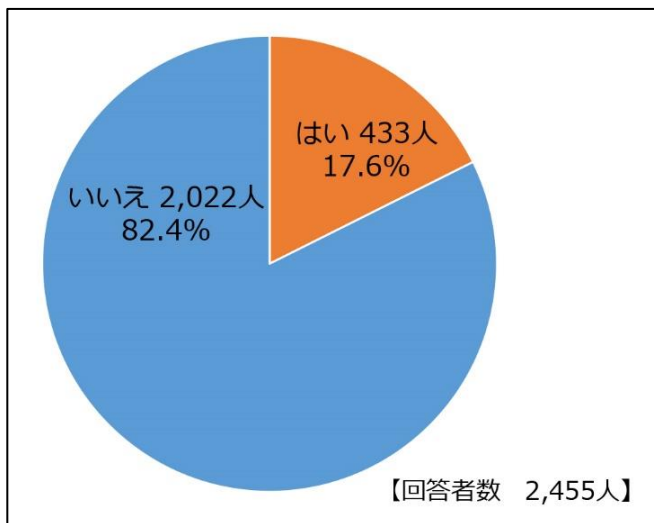


【5】非日系団体への参加

④-a. 非日系の団体に所属していますか？： (1)はい (2) いいえ

非日系の団体が具体的に何なのかが分からないという質問が何度かあり、趣味のグループ、スポーツクラブ、宗教等を含む、あらゆる非日系の任意の集まりが該当する旨説明した。17.6%が所属していると回答している。日系団体への参加に比べると少ないが、各国社会の中でごく一般的な数値ではないかと思われる。

【グラフ20】 非日系団体への所属



④-b. 「はい」の場合、何の団体ですか？

具体的な所属団体としては、以下の名称が記述された。調査総数の10%未満だが、広範囲の分野にわたっている。

職場、学校、日系団体を記載した例が見られたが、これは除外した。

【表12】 所属する非日系団体

団体の種類	(人)	具体的な団体名
宗教団体	37	教会、創価学会インターナショナル
業界団体	37 + a	エンジニア協会、海上および河川救助協会、企業研修、教師会、原子エネルギー研究所、公的機関、歯科医協会、女性起業家グループ、調理師協会、乳業者組合、農業コンサルタント、不動産協会、弁護士協会、不動産協会、全国建築士、建設技師同盟
スポーツ団体	34 + a	スポーツクラブ、ヨットクラブ、空手研究会、サッカーサポータークラブ、卓球協会、武道
文化団体	21	社交クラブ、文化協会、各種愛好会、劇団、哲学勉強会、日本のアイドルクラブ、踊り、趣味のサークル
市民団体	14	イスラエルクラブ、イタリアコミュニティ、父兄会、選別ゴミ、町内会、キューバ女性連盟、革命防衛委員会

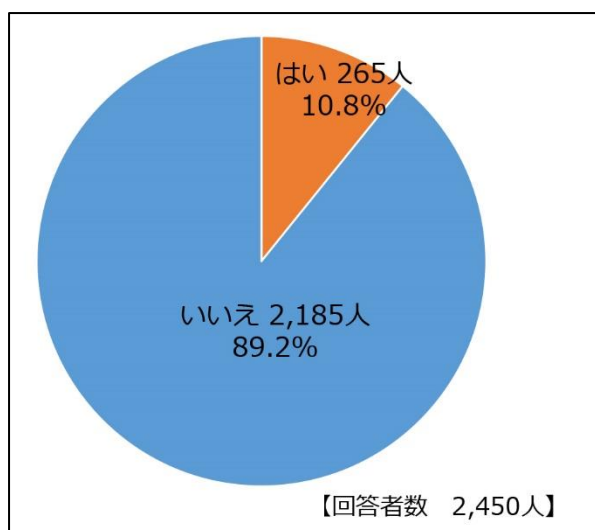
組合	13	農業協同組合、労働中央組合
大学関連	11	同窓会、大学生団体、バイオテクノロジープロジェクト、学生連盟
国際団体、結社	9	ロータリークラブ、ライオンズクラブ、フリーメーソン、ボーイスカウト
イベント	6	バザー、アニメ、オタクイベント
NPO	5	NPO
学生団体	4	学生連盟、留学生会
国家、政治団体	4	政府性長年育成部署、政党
福祉団体	4	福祉団体
その他	2	倉庫、役所
回答数	201 + a	

【複数回答／回答者数 212人 + a】

㊤-a. 非日系の業界団体に加入していますか？： (1)はい (2) いいえ

㊤の質問との区別が難しく、具体的回答があまり得られなかったが、10%程度が主に職業に関する業界団体に所属している。

【グラフ21】 非日系の業界団体への加入



㊤-b. 「はい」の場合、何の団体で、どんな役割ですか？

中南米の一般的な人たちの業界団体への加入率が不明なため、その多寡はわからないが、多岐にわたる業界の団体名が挙がっている。

【表13】 加入している非日系の業界団体

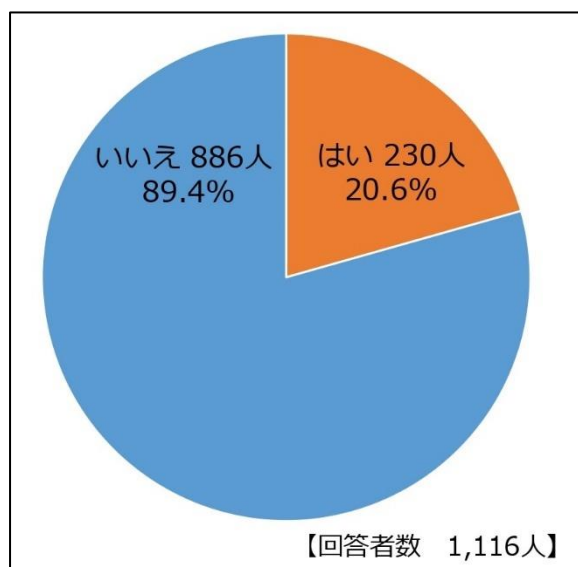
団体の種類	(人)	具体的な団体
業界	82 + a	エンジニア協会、会計士協会、中小企業支援団体、生物学協会、ソムリエ協会、医師会、通訳翻訳協会、ホテル協会、調理師協会、飲食関連団体、映画映像協会、記者連盟、観光協会、看護師会、教員組合、建設業団体、商工会議所、工会議所、法律学者協会、歴史学者同盟
組合	15 + a	農業組合、教員組合、労働組合、工業組合
大学	3	研究所、大学、企業研修生会
市民団体	1	女性問題
スポーツ団体	1	サッカー協会
政治団体	1	政党
福祉団体	1	財団
回答数	104 + a	

【複数回答／回答者数 111人 + a】

㉔-a. 非日系団体のボランティア活動に参加しますか？： (1) はい (2) いいえ

「参加する」が約20%で、前項目の非日系団体に所属する割合より高く、社会福祉活動をしている人が多い。「はい」は全体的に少ないが、キューバ、コロンビア、ベネズエラ、メキシコなどで比較的多い。ブラジルのデータが不足しているため、回答者数が少ない。

【グラフ22】 非日系団体のボランティアへの参加



㉔-b. 「はい」の場合、何のボランティアで、どんな役割ですか？

医療、保健、福祉関連のボランティア活動に多く参加している。

【表14】非日系団体のボランティア活動

ボランティア活動内容	(人)	
医療、保健、福祉	46 + a	エイズ防止活動、がん患者支援、スマイルオペレーション、パーキンソン患者支援、血液銀行、高齢者ケア、公共衛生支援団体、児童心理関係、貧困家庭支援、障がい者サポート、低所得者支援、赤十字、母乳育児促進プロジェクト、無料医療供給、地域感染症、子供や高齢者の外出サポート、ペットボトルのキャップ集め（予防接種用、医師の無償診療や病気予防キャンペーン）、障害者セラピー、老人ホーム訪問
住民活動	14 + a	住宅建設、ヤギチーズ開発、衛生活動、清掃活動、文化活動、学校修理、日系人サポート、地方の日系人サポート、カトリック教会や学校のPTAを通じての支援活動
文化、芸術、スポーツ	12 + a	ヨットクラブ、日本文化愛好会、空手教室、少年野球、日本文化普及、翻訳ボランティア
環境保全	8 + a	リサイクル、環境保護、植樹、動物愛護協会、動植物保護団体
社会教育	5	英語を教える、教育支援団体、成人教育、教員ボランティア
子どもの健全育成	4	ストリートチルドレン、児童シェルター、貧困家庭児童支援
国際協力、交流	2	難民支援
人権、平和	2	ユニセフ、国連
地域安全活動	2	遠足サポート、市民の安全
災害救援	1	ボランティア消防活動
情報化社会	1	ネットワーク支援
男女共同参画社会	1 + a	女性連盟と共同活動
その他	14	企業支援、NGO、宗教団体、大学、政治家支援団体、団体
回答数	112 + a	

【複数回答／回答者数 90人 + a】

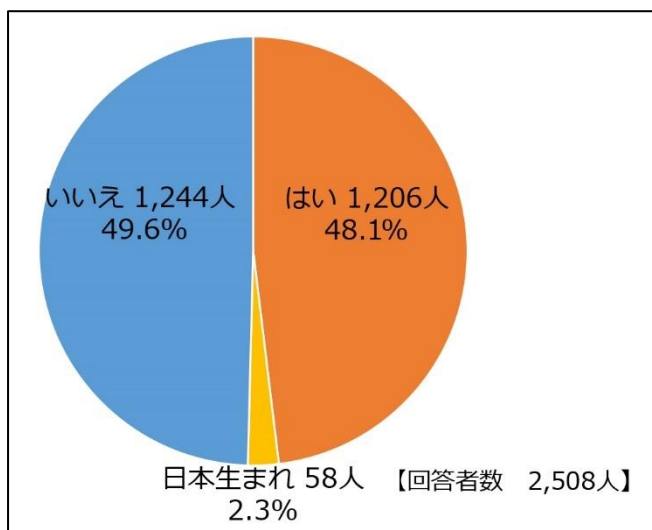
【6】日本訪問歴

⑦-a. 日本へ行ったことがありますか？： (1) はい (2) いいえ (3) 日本生まれ

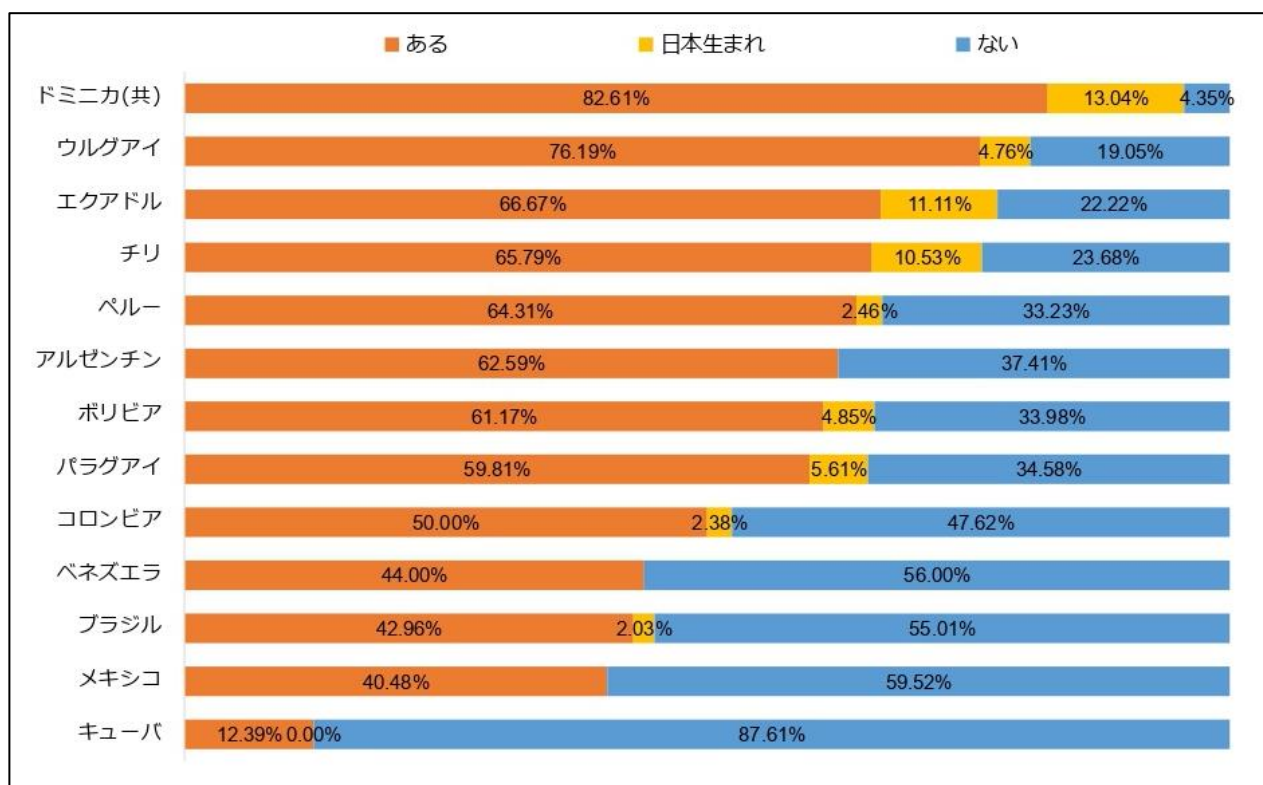
日本生まれを含め、約半数が訪日歴があると回答した。日系人として自身のルーツとなる国、精神的に身近な国、行くべき国と思っているのではないかと思われる。ドミニカ（共）、ウルグアイが特に高く、75%以上の人が少なくとも1度は訪日している。キューバは12.39%。ただ、距離的、経済的に敷居の高さがあるというのが多くの人の心情で、質問⑧でわかるように、大半が何度も往復しているわけではない。

それなりの日系文化があるところとないところでは、絶対的な日本行きの欲求が違うという意見もある。

【グラフ23a】 訪日経験



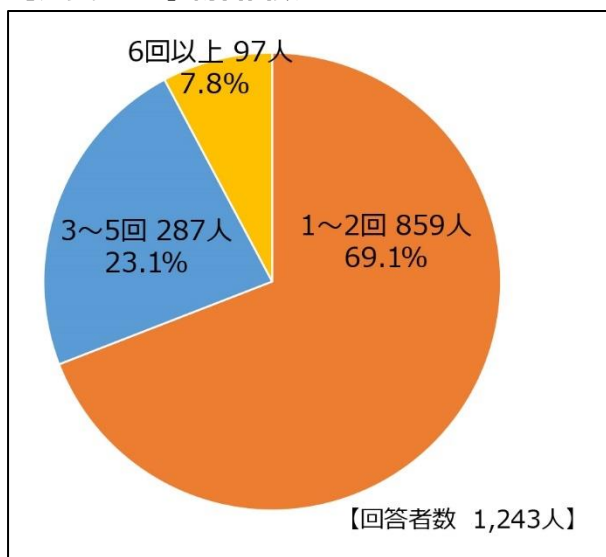
【グラフ23b】 国別／訪日経験の割合（多い順）



㉗-b. 「はい」の場合、訪日回数は？： (1) 1～2回 (2) 3～5回 (3) 6回以上

訪日回数は、70%近くが1～2回と多くはないが、3回以上行っている人たちが30%以上はいる。6回以上が60%近くを占める特別に訪日回数の多いのが、圧倒的に二世の多いエクアドル。

【グラフ23c】 訪日回数



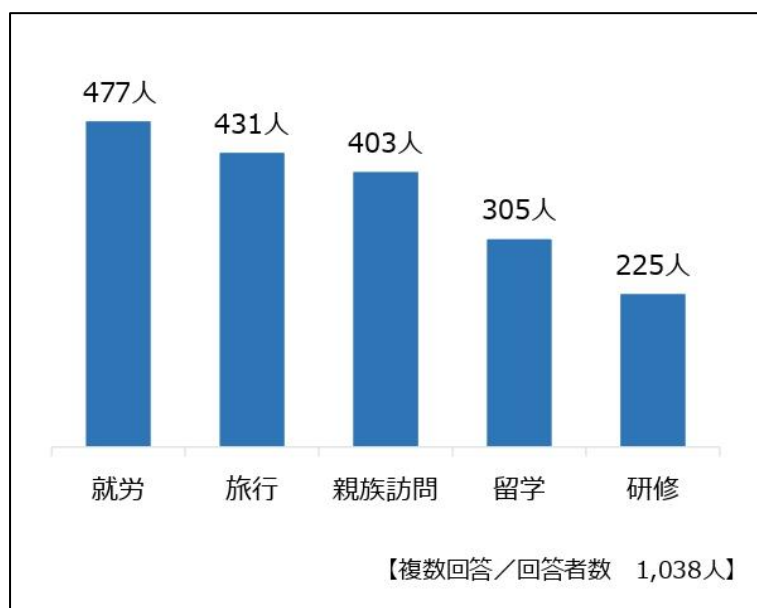
㉗-c. 「はい」の場合、 訪日の目的は？： （複数回答）

(1) 旅行 (2) 親族訪問 (3) 留学 (4) 研修 (5) 仕事

訪日目的は、26%で一番多いのは「就労」となった。就労の割合が高いのは、ブラジル (33.49%)、アルゼンチン (27.84%)、ペルー (24%) で、その他の国は20%前後となっている。前者3か国の場合はデカセギ就労者が多いと思われる。

「留学」「研修」は合わせて約30%。日系人口の多いブラジル、アルゼンチンは、留学、研修の割合が低い。

【グラフ24a】 訪日の目的



㉗-d. 「はい」の場合、滞在期間は？：

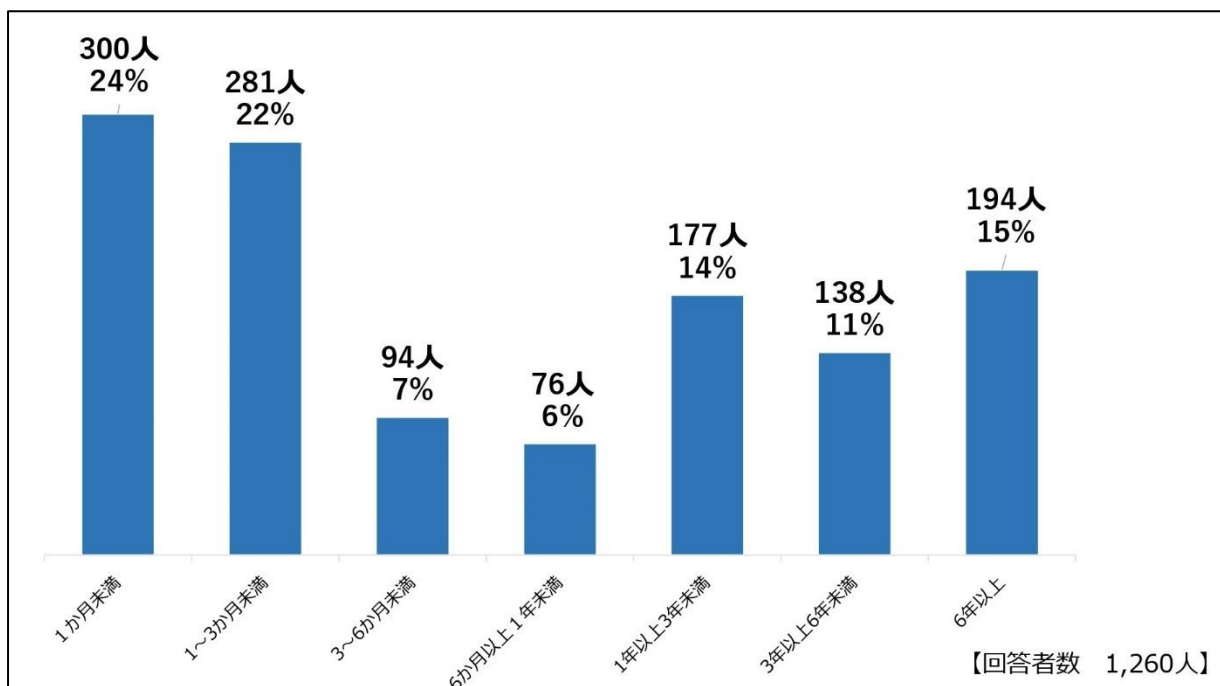
- (1) 1ヶ月未満 (2) 1～3ヶ月 (3) 3～6ヶ月 (4) 6ヶ月～1年
(5) 1年以上3年未満 (6) 3年以上6年未満 (7) 6年以上

長期滞在か短期滞在かにやや分かれる。主に就労か旅行かの違いだと思われる。

1ヶ月から3ヵ月までの短期滞在が全体の46%を占めている。また、6年以上の長期にわたって滞在中の人の割合は15%で、この194人のうち、およそ75%が就労が目的と回答している。

複数回滞在している人の場合は、一番長い期間を選択するよう説明した。

【グラフ24b】日本での滞在期間



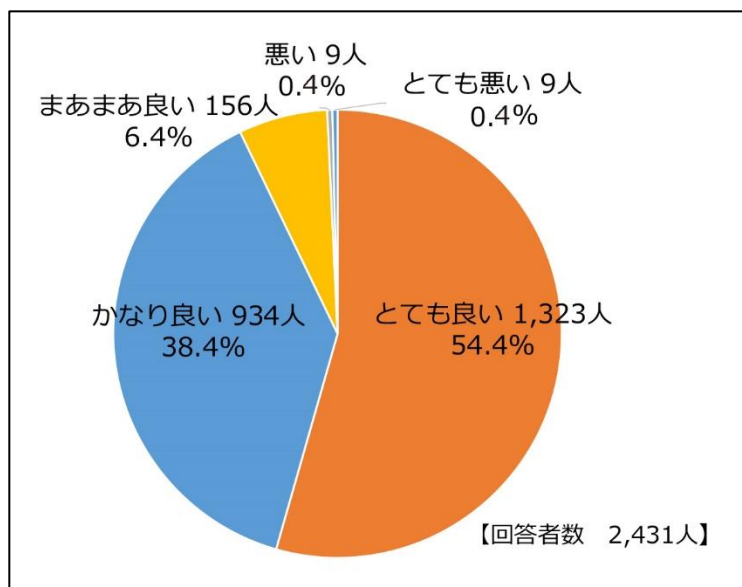
【7】日本に対する印象、好きなこと嫌いなこと

㉘日本に対してどんなイメージを持っていますか？

- (1) とても悪い (2) 悪い (3) まあまあ良い (4) かなり良い (5) とても良い

「かなり良い」と「とても良い」で94%を占め、「まあまあよい」を加えると99%を超え、全体的に大変よいイメージだといえる。「悪い」、「とても悪い」と答えた人が全部で18人いた。

【グラフ25】日本のイメージ



㊹-a. 日本のことで好きなこと、もっと知りたいことは？：

以下、該当箇所にいくつでもチェックをいれてください。

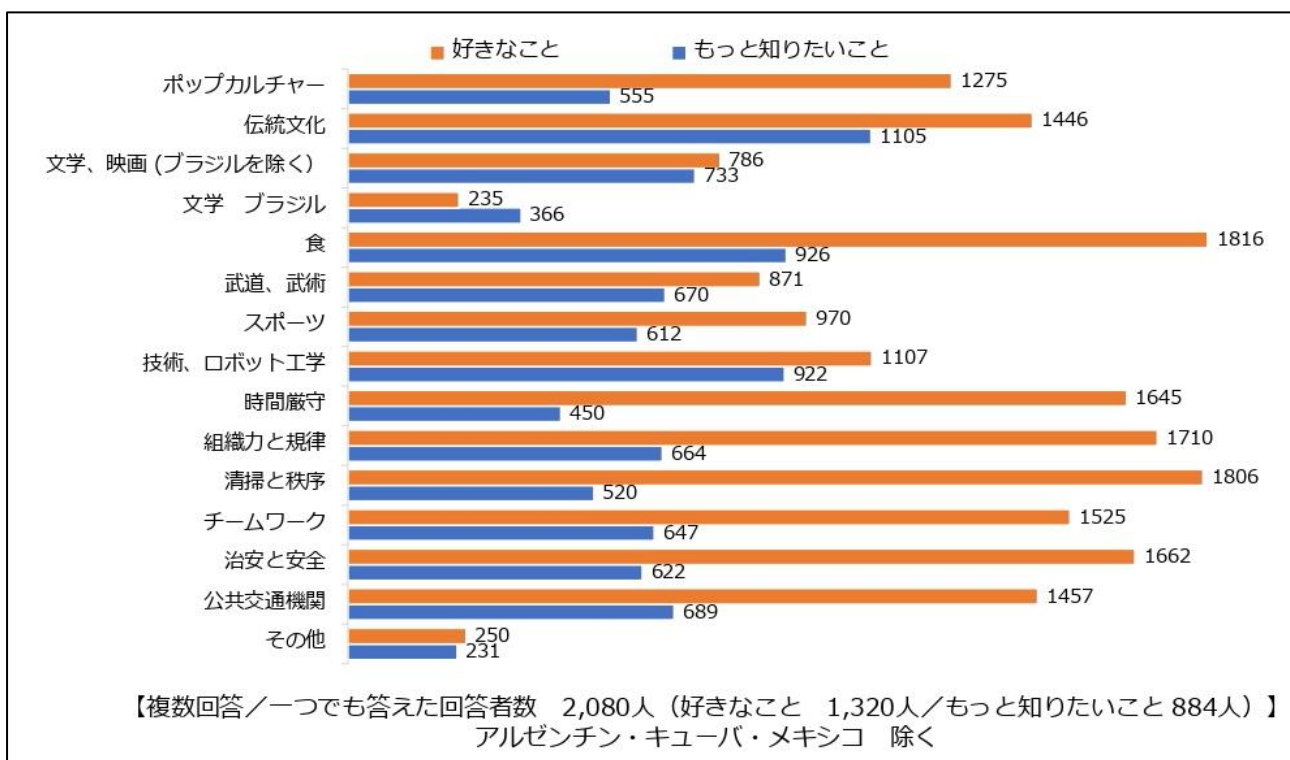
- (1) ポップカルチャー (2) 伝統文化 (3) 文学、映画 (5) 食 (6) 武道、武術
 (7) スポーツ (8) テクノロジー、ロボット工学 (9) 時間厳守 (10) 組織力と規律
 (11) 清掃と秩序 (12) チームワーク (13) 治安と安全 (14) 公共交通機関
 (15) その他

「好きなこと」のトップは「食」で、すぐあとに「清掃と秩序」、「組織力と規律」が続き、「治安と安全」、「時間厳守」、「チームワーク」となった。文化やテクノロジーよりも、規律や精神性に関わる項目を、回答者2,080人の8割程度が選んだ。

「もっと知りたいこと」に、「伝統文化」、「技術、ロボット工学」が挙げられている。

日本の良さを習慣や倫理観に見出していることがわかる。

【グラフ26】日本の好きなことともっと知りたいこと



㊹-b. 上記の日本のことについて、どのように知りましたか？：

「家族」が突出して多く、㊹-aで好きなこととして規律や精神性が多く選ばれたのは、家庭内でのしつけや教育など、家族の影響が強いことによると考えられる。

【表15】日本のことを知った動機

動機となるもの	(人)	具体的なツール
家族	1,047 + a	付き合い、習慣、伝統、環境
メディア	803 + a	ネット、テレビ、雑誌、本
訪日体験	525 + a	旅行、留学、就労
友人	252 + a	友人、職場、OB会
日系団体関係	199 + a	日系人協会、会館、県人会、青年会、太鼓、宗教団体、史料館
ポップカルチャー	193 + a	アニメ、漫画
学校	104 + a	日本語学校
個人体験	71	個人的リサーチ、趣味
イベント	44	フェスティバル、スポーツ
公的機関	3	JICA、領事館、大使館
こんな機会に	1	
回答数	3,242 + a	

【複数回答／回答者数 1,533人 + a】

②9-c. 日本に全く関心がない場合、その理由を教えてください。:

回答した人は極めて少なかった。マイナスイメージとして「自殺」、「差別」、「言葉の問題」、「地震」等があり、ほかには自分の現在に満足しているためというものが多い。

【表16】日本に関心がない理由

理 由	(人)
高い自殺率	6
住んでいる街に満足している	4
住んだ経験からいい印象がない	4
仕事や家族、友人が自国にいる	3
仕事には行きたくない、住みたくない	4
観光なら行きたい	3
日本語を話せない	1
外国人、日系人に対する差別	1
自国が好き、自国で長期計画がある、自国での生活が自分の人生	1
余裕がない。仕事が人生	1
閉鎖的な社会	1
地震、津波が怖い	1
日本以外の国に興味がある	1
戦争や征服の歴史を認められない	1
経済的問題	1
JICA研修制度に応募したが、合格しなかった。今は他に興味がある	1
特に理由はない	1
回答数	35

【複数回答／回答者数 29人】

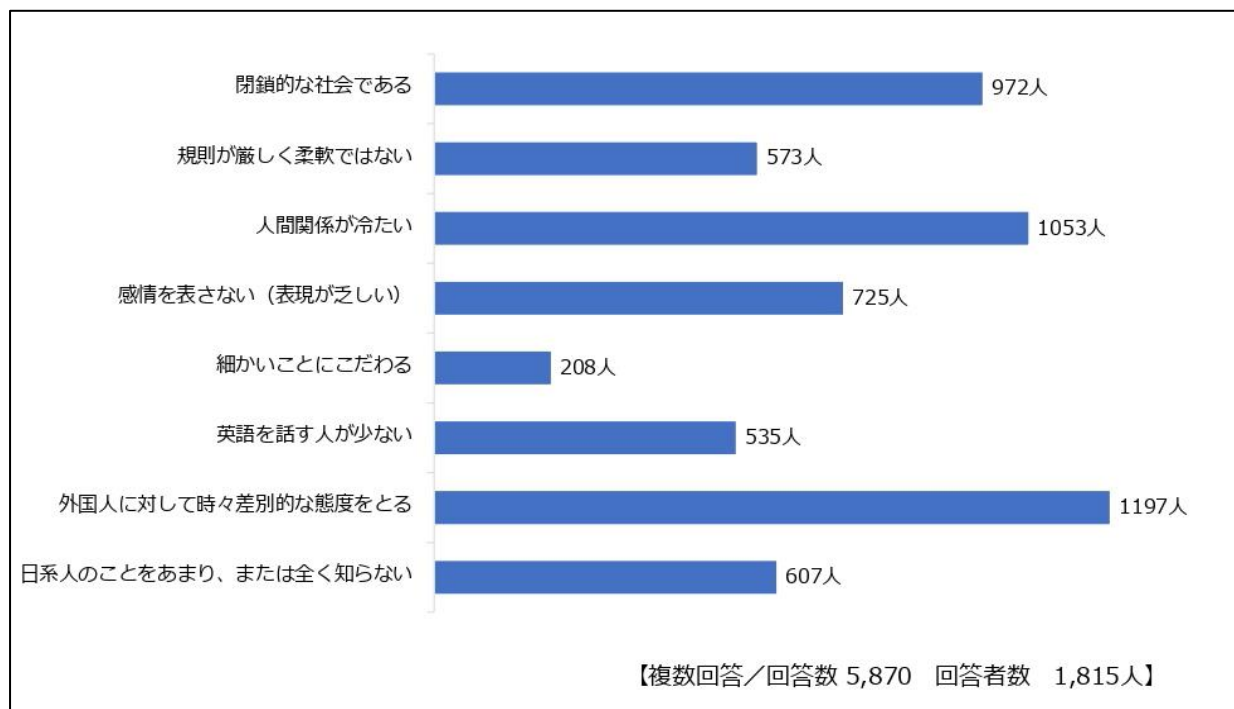
③0-a. 日本について好きではないことをいくつかも選んでください。:

- (1) 閉鎖的な社会である
- (2) 規則が厳しく、柔軟ではない
- (3) 人間関係が冷たい
- (4) 感情を表さない（表現が乏しい）
- (5) 細かいことにこだわる
- (6) 英語を話す人が少ない
- (7) 外国人に対して時々差別的な態度をとる
- (8) 日系人のことをあまり、または全く知らない

回答者1,815人のうち66%が「外国人に対して差別的」を選んだ。58%が「人間関係が冷たい」、54%が「閉鎖的」と感じている。

全回答者数2,567人のうち、752人（29％）は、ひとつも選ばなかったが、回答延べ数は5,870で、回答した人は、日本の好きでない点を平均3つ以上を選んでいる。

【グラフ27】日本の好きでないところ



③0-b. 上記の問いについて、コメントまたはアドバイスがあれば記入してください。：

日系人への理解や、文化の違いに対する柔軟性などが求められている。

【表17】日本の好きでないところについてのコメント

コメント	(人)
日系人を理解していない	47 + a
コミュニケーションが下手	33 + a
男尊女卑	33 + a
偏見がある	31
国際的でない	19
ビザ発給が厳しすぎる	18 + a
文化の違いを理解してほしい	15 + a
他の文化を理解する柔軟性がない	15
よくわからない	8
過剰労働	7
自殺が多い	7 + a
日系人を見下す、外国人扱いする	7 + a

上下関係	6
完璧主義	5
メンタルヘルスが不足している	5
日系社会への広報が不足している	5
就労に関する情報が日本から届かない	4
閉鎖的	4
真面目過ぎる	4
国籍、日本人と同じ資格がほしい	2 + a
留学、研修制度が足りない	2
日本に感謝している	2
日本人は冷たい	1
中南米の大学資格を認めてほしい	1
その他	4
回答数	285 + a

【記述式／回答者数 306人 + a】

⑪-a. あなたの地元でどのような行事、イベントをしたいですか？：

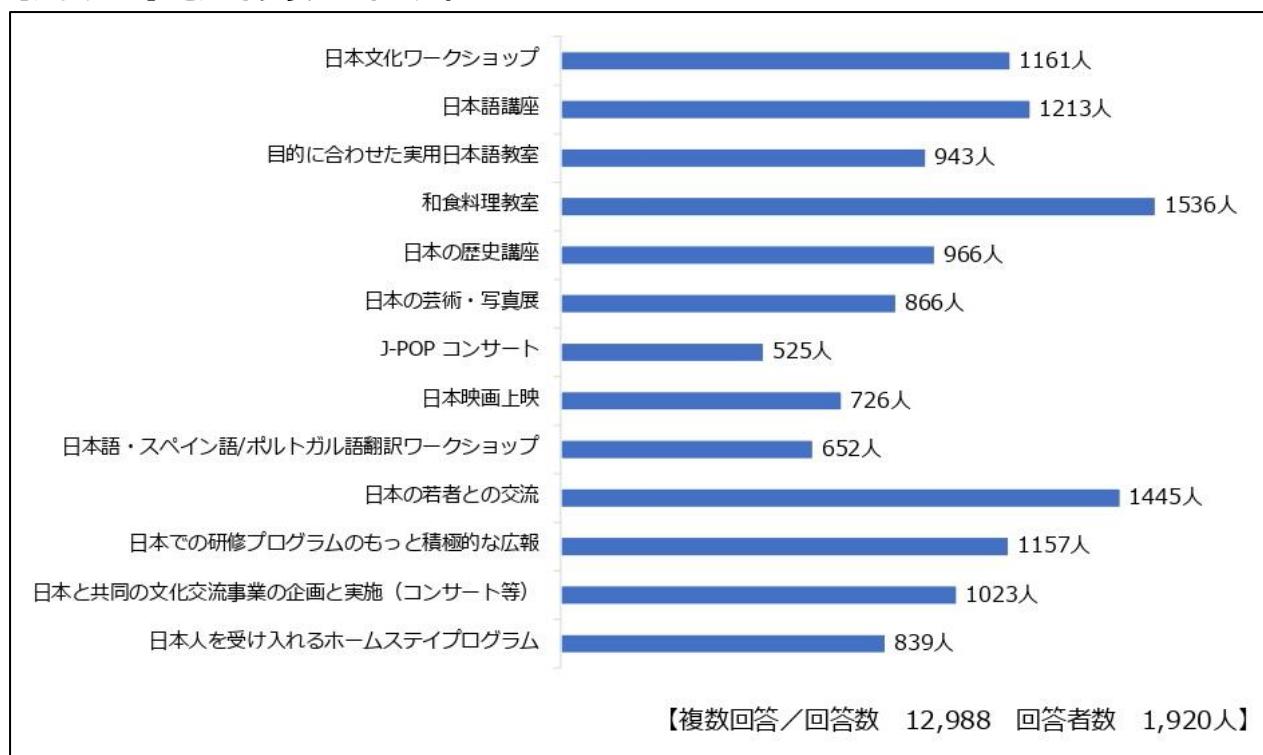
以下、該当箇所にいくつでもチェックをいれてください。

- (1) 日本文化ワークショップ
- (2) 日本語講座
- (3) 目的に合わせた実用日本語教室
- (4) 和食料理教室
- (5) 日本の歴史講座
- (6) 日本の芸術、写真展
- (7) J-Popコンサート
- (8) 日本映画上映
- (9) 日本語、スペイン語翻訳ワークショップ
- (10) 日本の若者との交流促進
- (11) 日本での研修プログラムのもっと積極的な広報
- (12) 日本と共同の文化交流事業の企画と実施（コンサート等）
- (13) 日本人を受け入れるホームステイプログラム

多い順で「和食料理教室」、「日本の若者との交流促進」、「日本語講座」、「日本文化ワークショップ」、「日本での研修プログラムの積極的な広報」が並んだ。「日本映画上映」、「翻訳ワークショップ」、「J-popコンサート」の人气がそれほど高くない。全体的に、インタラクティブな形式が好まれている。

回答者は1人当たり6から7項目を選択している。

【グラフ28】地元でやりたいイベント



⑩-b. 上記の問いについて、コメントまたはアドバイスがあれば記入してください。

日本文化の普及、専門分野やビジネスにおける交流、などが主な要望として挙げられている。

【表18】地元でやりたいイベントについてのコメント

やりたいこと、コメント	(人)
日本の文化、歴史、伝統に関するイベント	51
日本文化の広報	16
ビジネス交流	10
専門分野に関するイベント	10
日本との協力体制強化	10
スポーツ交流	6
日本の文化は非日系の関心が高い	5
日本の良い習慣や道徳を自国に導入する	5
若い世代を対象とした交流	4
イベントを地方でも開催してほしい	4
感謝（日本や本調査へ）	4
学術研究	3
日本語学習	3
地元との交流（ホームステイなど）	3
ポップカルチャー	3

日系活動の紹介	3
文化交流の推進	3
日系人同士の交流	1
かつては有名アーティストの公演があった	1
回答数	145

【記述式／回答者数 332人】

【8】語学力（日本語と英語、スペイン語の理解度）

③-a. 日本語、英語、スペイン語またはポルトガル語の語学レベルについて、会話力、読解力、記述力ごとに、次のレベルで回答してください。

(1) 全くできない～入門レベル (2) 初級レベル (3) 中級レベル (4) 上級レベル (5) 母語レベル

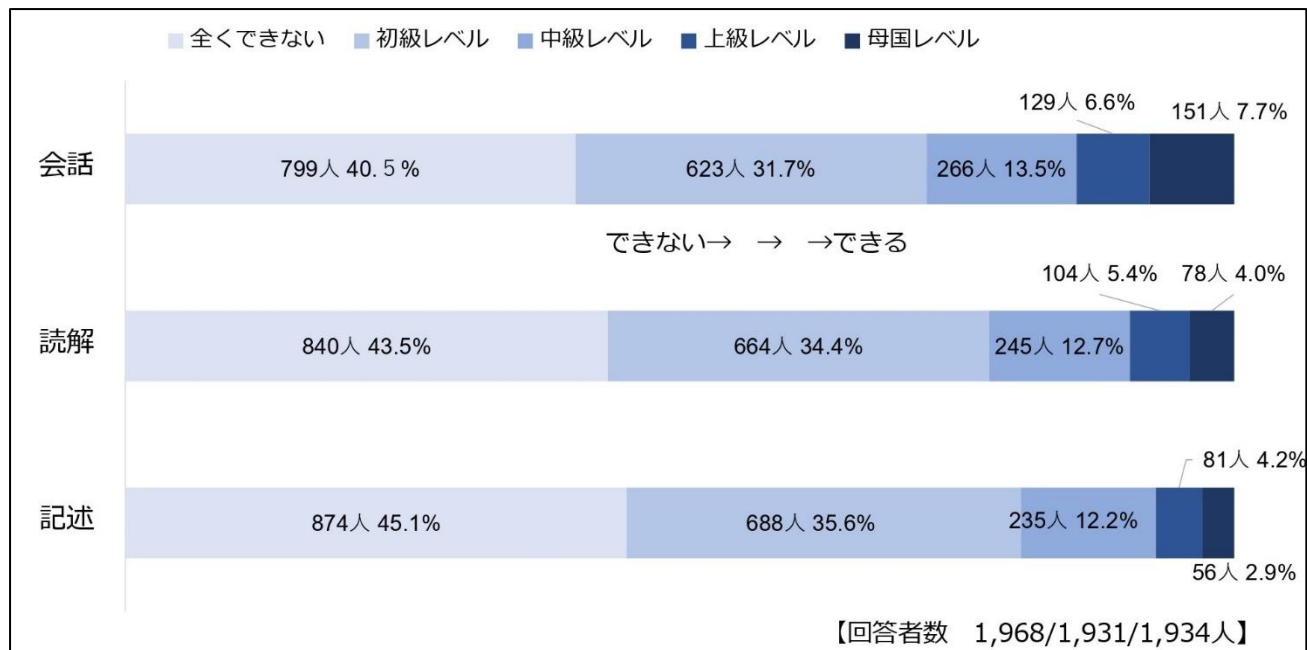
日本語レベルは、会話、読解、記述の順でできない割合は増加する。全体的に「全くできない」および「初級レベル」が80%前後を占め、そのうちの約半分が「全くできない」。中級レベルが10～13%前後、「上級」と「母国語レベル」は、5～10%前後と、全般的に日本語レベルは高くない。国別では、二世が多いウルグアイ、エクアドル、ボリビアのレベルが高く、コロンビア、チリ、ブラジルのレベルが高くない。

英語レベルは、中級以上が70%を占めており、日本語に比べるとレベルは高い。

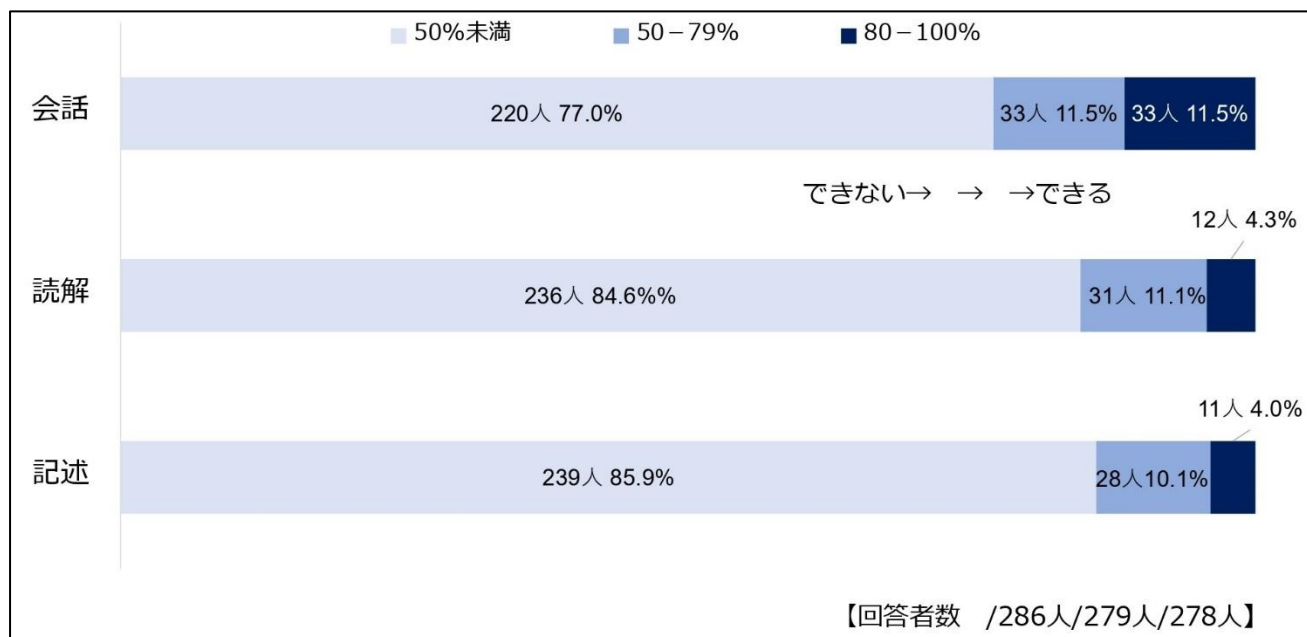
母国語については、90%が問題ないが、初級レベルが1%弱存在している。

なお、アルゼンチン、キューバ、メキシコの調査時は、「50%未満」、「50～79%」、「80～100%」の3段階による分類だったが、その後は上記5段階の分類となり、合算することができないため、統計を別にした。この項目についてはメキシコのデータが不足、母国語レベルについては、アルゼンチン、キューバ、メキシコのデータが不足している。

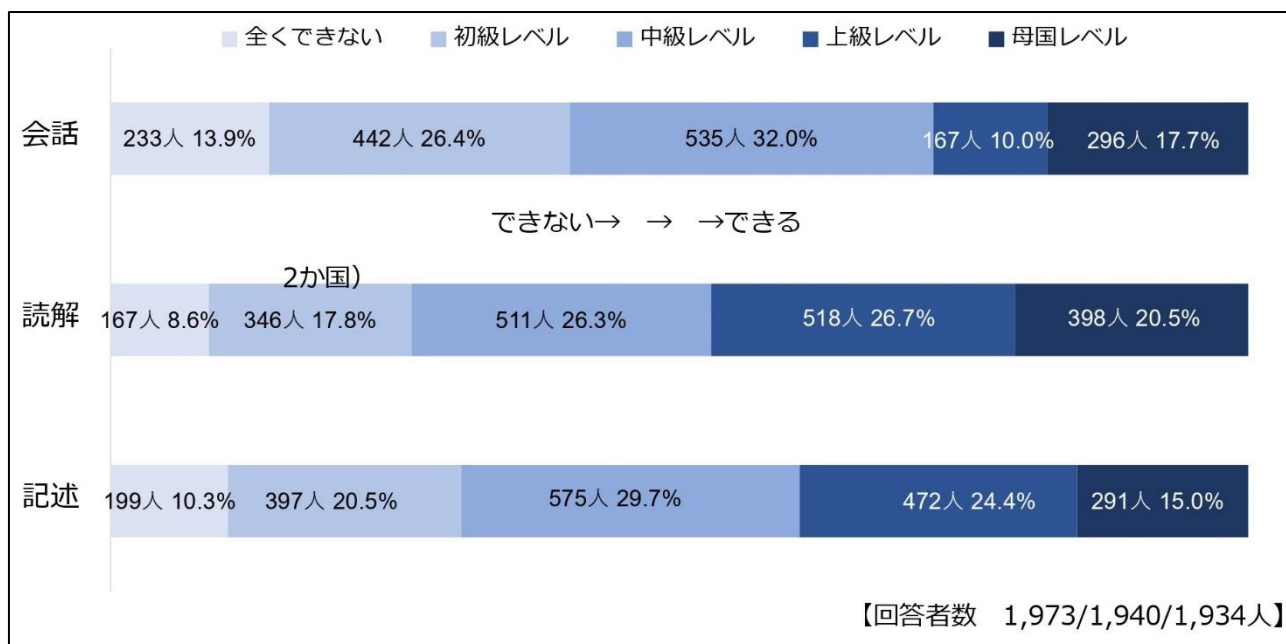
【グラフ29a】日本語レベル（10か国／ウルグアイ、エクアドル、コロンビア、チリ、ドミニカ、パラグアイ、ブラジル、ベネズエラ、ペルー、ボリビア）



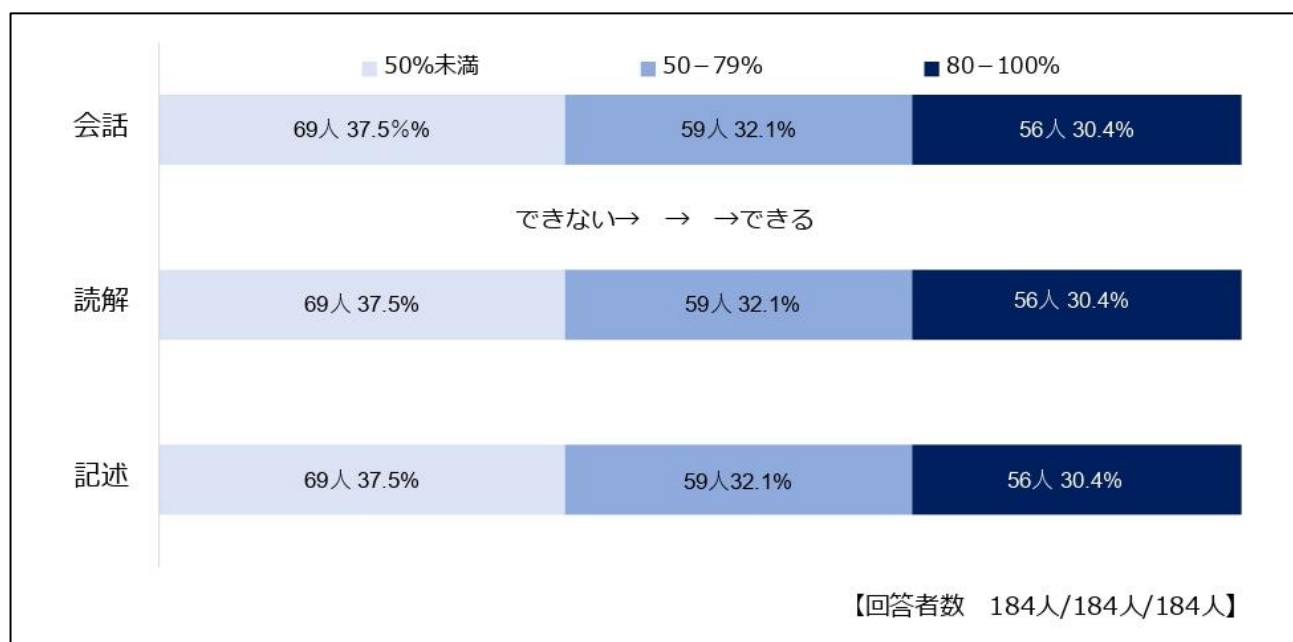
【グラフ29b】日本語レベル（2か国／アルゼンチン、キューバ）



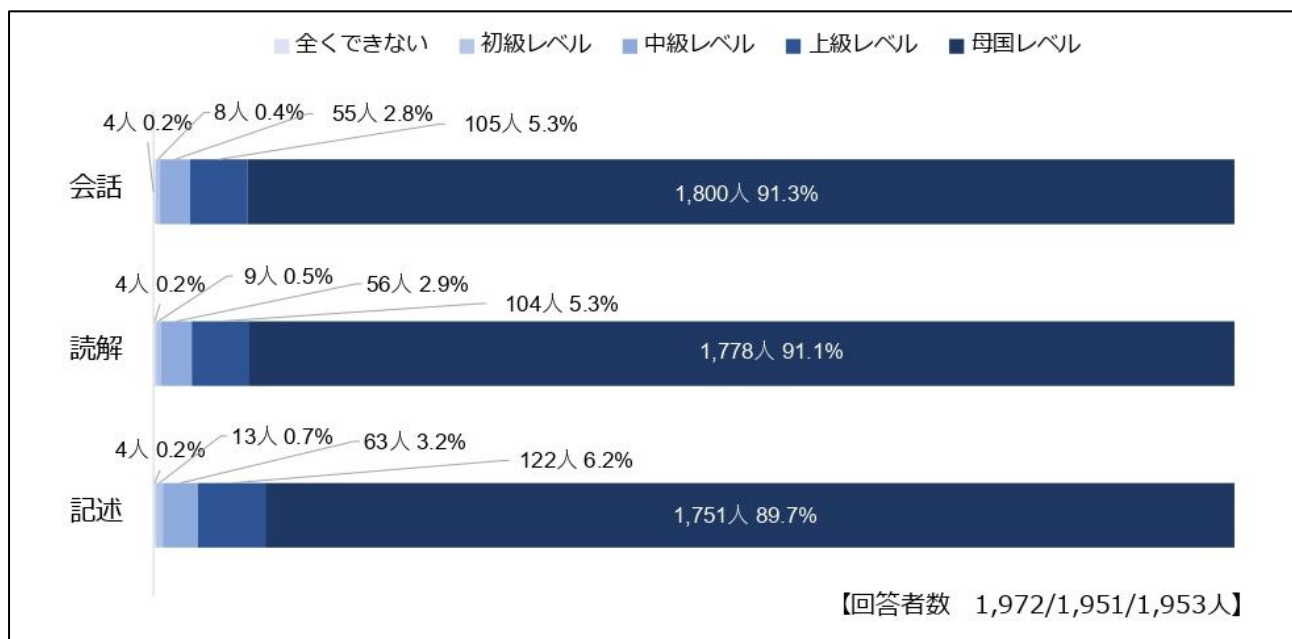
【グラフ29c】 英語レベル（10か国）



【グラフ29d】 英語レベル（2か国）



【グラフ29e】 母国語レベル（10か国）

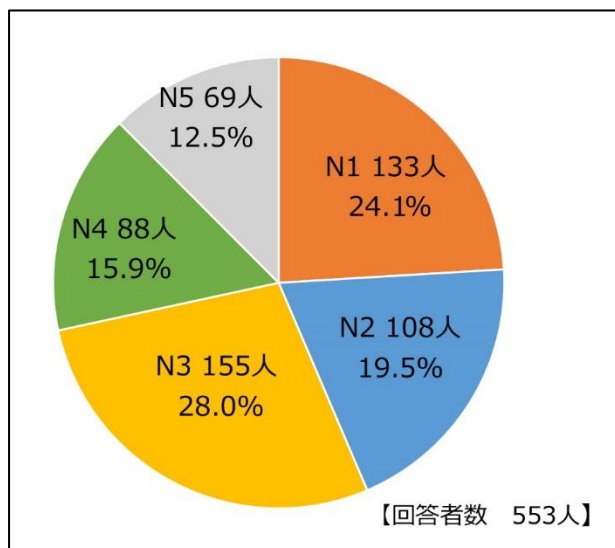


⑫-b. JLPT（日本語能力試験）を受験したことがある方は、N4、N3等取得レベルを記入してください。

日本語能力試験を受けた人は553人で全体の21%。そのうち最高峰のN1レベルは24.1%で、調査参加者全体から見ると、わずか5%にとどまる。

国によって大きな差がある。

【グラフ30】 日本語能力試験JLPT取得レベル



【表19】国別／日本語能力試験N1～N5取得者の割合

国名	取得した人の割合
パラグアイ	67%
ボリビア	64%
ウルグアイ	57%
ドミニカ	37%
アルゼンチン	30%
ペルー	24%
ブラジル	16%
コロンビア、メキシコ	14%
エクアドル	11%
ベネズエラ	8%
キューバ	0%

③-c. 日本語がわからない場合、その理由は？：

学校や先生が不足していることや、家庭で使われなかった、時間がない等、環境を主な理由としており、自らの興味で学習しなかったと回答したのは、約18%となっている。

【表20】日本語がわからない理由

理由	(人)	具体的な理由
学習機会の不足	252	日本語学校が近くなかった、先生がいない、日系団体が近くにいる、仕事上必要ない、使う機会がなかった
家庭環境	207	家庭で話さない、進められなかった、勉強しなかった、両親が熱心でなかった、日本とのつながりがなかった、世代間で伝えていない
興味、関心がない	141	興味がない、英語や他の言語を優先した、母国語に集中した、テクノロジーを使って違う言語でもコミュニケーションは取れる、面倒くさい、モチベーションがない
時間がない	116	時間がない、仕事が忙しい、残業が多い
今後勉強したい	27	勉強中、大人になって必要性を感じている、子供の頃いじめられた経験があり勉強できなかったが今はしたい、興味はある、始めたい
経済的理由	19	金銭的問題、学費が高い、資金がない
その他	40	個人的理由、難しい、漢字が難しい、忘れてしまった、独学なので正しいかわからない、個人的責任、短期語学留学制度があればよい
回答数	802	

【記述式／回答者数 924人】

【9】その他の要望、提案、コメント等

③日本政府に対するコメント、助言、要望等があればご記入ください。：

①国籍、ビザへの要望、②留学に関する要望、③日系社会に対する理解、支援に関する要望、④

ビジネス関係強化に関する要望等が挙げられている。

【表21】日本政府へのコメント、要望

コメント、要望	(人)	コメント、要望の詳細
国籍がほしい	66 + α	日本国籍がほしい、二重国籍を許可してほしい、日本人と同等の権利がほしい
留学研修制度の充実を	56 + α	もっと多くの日系人にチャンスを与えてほしい、日本への興味につながるいい機会、あらゆる部門（医療、エンジニア、スポーツ、太鼓、日本語、就労目的の日本語など）での留学研修を、大学生以外の若者にも留学チャンスを
日系社会研究の推進	47 + α	移民の歴史を知りたい、海外の日系社会がその国に与える影響の研究、戦時中の日本語教育の歴史、日系社会調査、日系農業移民の歴史、日系社会の貢献を知らせる、祖先のルーツや歴史を知りたい
医療、健康支援	35	病院への支援、高齢者支援、コロナ被害への支援、コロナワクチン支援
ビザ発給の緩和を望む	29 + α	観光ビザ、就労ビザ、永住ビザ、入国制限緩和、ワーキングホリデーの導入
日本語学習支援	23 + α	学習教材の提供、日本語講座の充実、費用負担
若い世代支援	21 + α	日系人の若者リーダー育成、若い世代間の交流、学術研究支援
日系社会支援	21	日系団体への支援、小規模団体・会館への支援、青年会への支援、日系文化継承のための支援、日系同士の関係を深める、世界中の日系人との交流
日系人を理解してほしい	18	移民や日系人に対するステレオタイプのイメージを変えてほしい、新しい日系人像をもってほしい、日系人は人材として有能・有効活用できる、日系人として誇りを持っている
継続を望む	18	これまでのような支援の継続
文化・イベント支援	16 + α	自主映画製作支援、祭りを開催したい、ポップカルチャーの紹介、国レベルで日本文化を紹介、日系イベントを開催したい
広報の強化	15 + α	日本からの広報の強化、日本の広報は古臭い、日本の情報がほしい、情報が届いていない、住宅事情が知りたい、レールパスの使い方がわからない
日本を心配している	15 + α	捕鯨をやめてほしい、自殺が多い、米軍基地、最近韓国系アーティストの方が有名、悪徳な日系人もいるので注意、日本の学生に異文化教育を、メンタルヘルスは大事
両国の交流	14 + α	日本の国際化になる、異文化交流、日本政府が中南米を知ることは大切
日本に感謝している	14 + α	日本が好き、日本政府は常に外国人を支援してきた、就労受け入れに感謝、調査に感謝、日本は素晴らしい国だ、日本政府の方針は正しい
ビジネス交流	14	輸出、飲食関係、日本企業との交流
地方への支援	12 + α	中央だけでなく地方にも目を向けてほしい、地方でもイベント、ワークショップをやってほしい
日本的な道徳習慣が自国に貢献している	12 + α	日本的な道徳習慣は中南米をよくする、非日系の中に日系文化を植えればよい、ソフトパワーの活用
就労について	11	出稼ぎ以外の就労も考えてほしい、職業的な専門分野間での交流、情報が足りない
オンラインネットワーク構築	8	ネット活用の推進
日本文化の発信	7 + α	日本製品、コスプレ、マンガ、日本食、伝統職人芸を伝えてほしい、自分がやりたい

非日系も対象に	6 + a	非日系が日本や日系に興味をもっている、非日系にも門戸を開く、非日系の積極的な参加を促す
スポーツ支援	5 + a	野球、ソフト、卓球
専門家派遣	4	専門家の派遣を望む
学術交流	4	専門分野の学術交流、字術面への投資
日本は排他的	3	日本は偏見、差別がある
日本は柔軟さがない	3	日本はヨーロッパ諸国のような柔軟さがない
在日日系人支援	3	在日日系人支援
自国支援	1	児童支援がもっと必要
回答数	501 + a	

【記述式／回答者数 641人】

③④ご自身の地域にある日系団体に対するコメント、助言、要望等があればご記入ください。:

文化イベントの推進、広報の徹底、日系人へのサポートを要望する他、団体の重要性を訴えている。

【表22】地元の日系団体へのコメント、要望

コメント、要望	(人)	具体的な内容
文化活動、研究、イベントの推進	46 + a	音楽、文化や習慣の紹介、日本文化を知ることができる行事、訪日に関心を持ってもらえるよう働きかけよう、料理教室
広報、情報共有をもっとしてほしい	41 + a	オンライン、宣伝活動、人集め、
日系社会への支援をしてほしい	34	コロナ検査の無料化、出稼ぎ帰りへのサポート
若い世代を理解してほしい、応援してほしい	29 + a	青年館の交流を促進する、昔のように日系の若者同士の交流をしたい、スキルアップ、仕事、奨学生度、若者の意見を取り入れる
団体は大切だ	25	日系人にとって団体は大切だ、頑張りましょう、ポリビア日系として誇りがある、日系としての自覚を保持してくれる日系団体に感謝している、日本語と触れることができてよい、
運営方針の改革が必要	24 + a	時代に合わせた近代化を行ってほしい、団体設備をもっと活用してほしい、ビジネスの方法を取り入れてほしい
結束力を強めてほしい	22 + a	もっと団結してほしい、嫉妬や怒りをやめてほしい
日系団体、コミュニティを知らない	21	身近に日系コミュニティがない、
高齢化、弱体化している	18 + a	日系社会に参加しない日系人は団体の活動に興味を持っていない、運動会など行われていない、後任がいらない
日系人同士、地域同士の交流の促進	18	日系人同士のつながりを強める
団体の存在意義を大事にしてほしい	16	日系人の心のよりどころ、社会のために役立つ活動もしてほしい、日本語をもっと使ってほしい
閉鎖的	16	もっと開放してほしい、いろんな日系人に参加を呼び掛けてほしい
日本語学習への支援	15 + a	学習プログラムの充実、学習する人への奨学金制度、オンライン学習

非日系も意識するべきだ	14 + a	非日系を意識した地域活動をしてほしい、ボリビア社会との関係を深める
(日系団体を) 作りたい、参加したい 活動したい	14	地元でない、日系社会内で、日本の関心を高めたい
対日本との関係強化	11	日本製輸入品が欲しい
地元に貢献する大切な存在だ	5	日系団体の活動によって日本の習慣を学ぶことができる、社会のためになる活動を続けてほしい
その他	5	日系人として区別はない、日系が何かわからない、大使館とのパイプになってほしい、在日ブラジル人について知りたい、
感謝している	1	
回答数	380 + a	

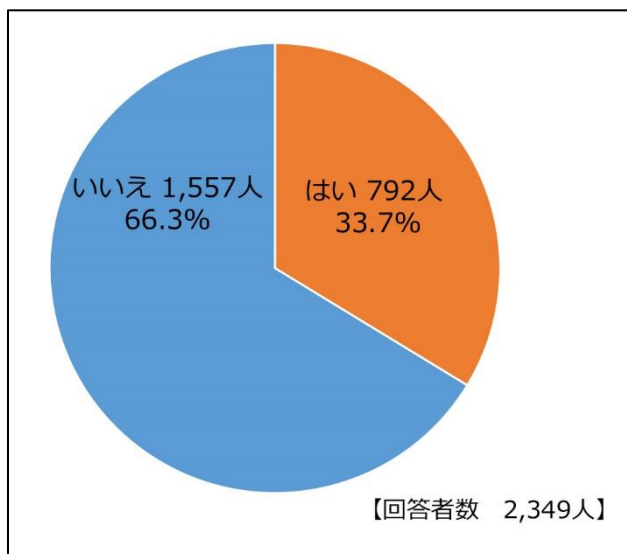
【記述式／回答者数 467人 + a】

③⑤日本国外務省または日本国大使館のウェブサイトやSNSを閲覧したことはありますか？：

(1) はい (2) いいえ

見たことがあると回答した人は全体の33.7%で、多くの人が見たことがない。

【グラフ31】 外務省のウェブサイト閲覧したことがあるか

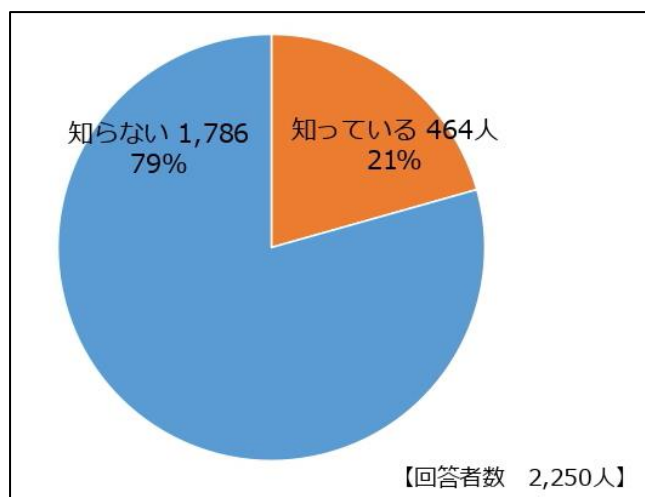


③⑥-a. 日系人に対する日本の政策や事業について知っていますか？：

(1) 知っている (2) 知らない

「知っている」と回答したのはわずか21%で、日本への関心の高さとはいかに逆の正しい情報を得ていないと思われる。

【グラフ32】日系人に対する日本の政策を知っているか



③⑥-b. 「知っている」と回答された方は、どのように知りましたか？：

【表23】日系人に対する日本の政策を知った手段

手 段	(人)	具体的な手段
メディア	291	新聞、ネット、SNS、サイト
公的機関	104	JICA、領事館、大使館、広報、市役所、説明会、講演会
日系団体関係	82	日系人協会、会館、県人会、青年会、日本人会、交流会、協議会、留学生会
家族	60	家族
友人	17	友人、知人、会社
個人体験	14	個人的リサーチ、人材派遣会社、日本滞在中
学校	8	日本語学校
イベント	1	イベント
その他	55	
合 計	632	

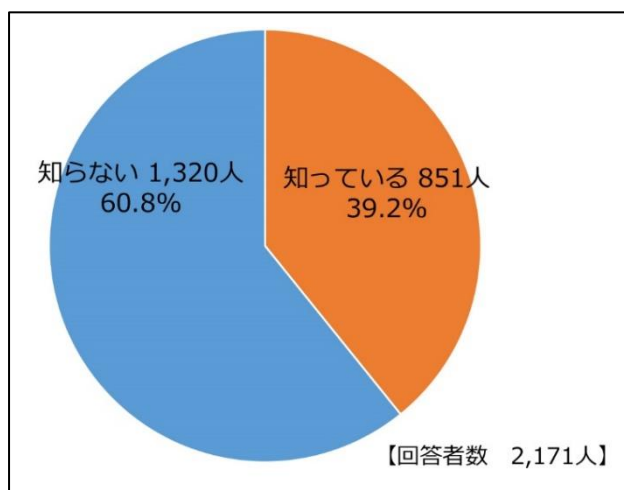
【複数回答／回答者数 274人+a】

③⑦2018年7月に発効した「四世ビザ」をどう思いますか？：

本制度を「知らない」と答えた人が過半数を超えており、四世の存在にまだ至っていないところも多くあり（質問④ 【グラフ3b】）、実質的に関係ないということで、あまり知られていないのが実情。

なお、本制度に該当する四世は538人で21.1%。

【グラフ33】 四世ビザを知っているか



【表24】 四世ビザをどう思うか

コメント	(人)	具体的な内容
良い	455 + a	とても良い、賛成、前進した
日本を知るいい機会	112	日本を知るいい機会、自分のルーツを知ることができる、自国のコミュニティにも近くなる、日本語学習者が増える
日本に感謝している	83	日系人を考慮してくれてありがたい、興味深い制度
条件が厳しい	42 + a	厳しすぎる、現実的ではない、門戸を広げてほしい
日系人を理解してほしい	35	日系人は有用な人材、大事にしてほしい
世代で区別しないで	13	世代差をつけないでほしい、不公平、5世にもチャンス
慎重になってほしい	10	審査や条件は慎重なほうがよい、日系人に日本で問題を起こしてほしくない
日本に都合がいい	9	日本の労働力不足解消のため、年金問題解決のため、高齢化社会の日本に必要、移民が少ない日本にとってプラス
日本語能力を求めることは良いことだ	9	当然の措置、日本語学習者が増える、在日外国人へも適用すべき
日本語能力の資格が難しすぎる	7	N4は難しすぎる、不公平、日本語がネックになる
期待できない	6	就労だけではよくない、訪日はできない
もっと知りたい	6	もっと知りたい、情報がほしい
戸籍がわからない	5	戸籍をとるのが難しい
挑戦したい	4	もっと知りたい、日本へ行きたい、申請した
日系人の権利	4	日系人に必要な措置、日本人子孫の当然の権利
日本の問題がある	3	個人の自由がない
専門分野を多くしてほしい	2	専門分野を多くしてほしい
国籍	1	二重国籍を許可すべき
在日日系人支援	1	在日日系人への支援になる
回答数	807 + a	

【記述式／回答者数 904人 + a】

【10】新型コロナウイルス感染拡大の影響について

③新型コロナウイルス感染拡大であなたの経済状況に変化がありましたか？

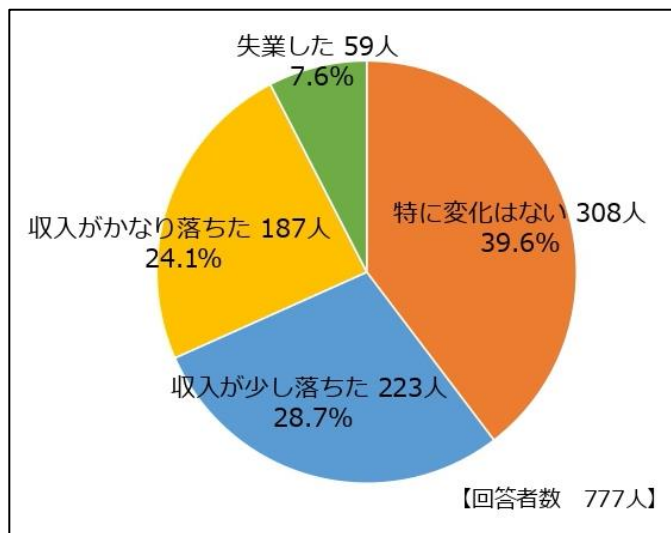
(1) 失業した (2) 収入がかなり落ちた (3) 収入が少し落ちた (4) 特に変化なし

「特に変化はない」が40%近い。「収入がかなり落ちた」、「失業した」という重い影響を受けた人が30%を超えている。

コロナ禍の初期の2020年に行った調査時と、2022年の補足調査時では、状況も変化したが、それでも多くの国で同じように「特に変化はない」が最も多い結果となった。

アルゼンチン、キューバ、ブラジル、メキシコについては、補足調査として行ったため、調査人数が少ない。

【グラフ34】 コロナ禍で経済状況に変化があったか



④新型コロナウイルス感染拡大で、あなたの周辺の日系人や日系団体にどんな影響がありましたか？

日系関連の活動や日本語学校がほぼ停止してしまったと見られるが、調査中でも、都会と地方都市では状況がかなり違っており、比較的通常通りの日常を送っていたところもあった。

【表25】 新型コロナによる影響

主な内容	(人)	具体的な内容
イベント、お祭り、会議、行事、日本語学校などが停止した	263	活動停止、運営資金収入減
経済に影響した	169	失業した、収入減、飲食業、観光業が打撃を受けた
オンライン化した	57	日本語授業や会議がオンライン化した
生活が困難	46	生活のさまざまなことに困難をきたした
データがないのでわからない	36	データがない、わからない、日系コミュニティの活動がなく情報がない

影響はなかった	30	影響なし
人と疎遠になった	27	人と会えなくなった、付き合いが減った。
家族や知人を失った	19	家族、知人などを亡くした
活動再開に向けて	15	活動は徐々に再開している、新たな適応力が必要、人生が変わってしまった、活動方法の変化
多少影響があった	13	多少影響があった
心身の健康	10	メンタル不調、健康不良、自殺があった
高齢者の孤立	7	高齢の医師が働けない、高齢者が心配
訪日できない	5	留学や研修の中止、家族と会えなくなった、ビザが取得できない
日系同士で助け合った	4	小さい日系社会なのでお互いに助け合っている、団結力が強まった
デカセギに行った	4	日本に行った、外国へ行った
少し安定してきている	3	平常に戻りつつある
感染予防の認識が低い人がある	3	感染予防の認識の低い人がある、マスクを使わない
海外旅行ができなかった	2	旅行ができなくなった
社会不安	2	閉塞感
アジア人差別や偏見が見られた	1	アジア人差別や偏見が見られた
社会活動や教育	1	教育面で影響が大きい
行動制限	1	交通手段
国からの支援が不十分	1	国が大変な状況なので、十分な支援ができていない
回答数	719	

【記述式／回答者数 646人】

④新型コロナウイルス感染拡大でとくに心配なことは何ですか？：

身近な人への感染、健康への心配事が大きい。経済的な打撃や先の見えない不安、医療崩壊、ワクチン接種が始まってからは、その効果や副作用やワクチン不足などの心配が挙がっている。

【表26】新型コロナで心配なこと

内容	(人)	具体的な内容
家族や友達への感染、健康	148	家族や友達、周囲への感染、衛生観念
経済への打撃	118	経済悪化、収入減、観光業への打撃
将来への不安	57	通常化の見通しがない
医療に関する不安	37	医療崩壊、高額医療費
ワクチンへの心配	34	接種を受けない人、ワクチンの効果・副作用、ワクチン不足
感染予防や情報共有	28	3密を続けてほしい、予防対策不足
高齢者への心配	27	高齢者への感染、高リスク者への感染
心身の不調	26	メンタル不調、後遺症
日系社会の活動が停止	21	弱体化、日系社会の消滅
感染拡大	15	感染増、コロナ第2波、新種株

国の対策、政策	16	国の政策、社会福祉制度、治安、社会不安
子供の将来	13	子供たちの教育、子供や若い世代の将来
認識不足	12	国民の認識不足、社会の無関心
活動再開	9	活動再開、新しい技術、生活スタイルへの適応
就職活動、学業	7	教育水準の差、学校が早く再開してほしい、子供たちの教育
人との隔離	6	孤独死、日系社会内の関係が弱くなる
活動制限	5	活動制限
脅威	5	怖い
ない	4	特にない、心配していない
日系社会の活動停止	2	日系社会の消滅、日系社会の弱体化
勉学、留学への影響	2	海外留学の中止
全体の問題	2	ラテンアメリカ全体の問題
死ぬこと	2	死ぬこと
オンラインでは不十分	2	オンラインでは不十分、ネットに詳しくない人の孤立
事業の中止	1	プロジェクトの継続の困難
対応が困難	1	パンデミックに対応するだけの準備が我々のような小都市にはない
回答数	600	

【記述式／回答者数 555人】

④新型コロナウイルス感染拡大に関して日本政府に要望があれば、記入してください。

ワクチンや医薬品等、物資の支援の他、日本の感染予防策への共感の声が多かった。

【表27】新型コロナに関する日本政府への要望

内容	(人)	具体的な内容
ワクチン開発	60	共同研究、開発、接種が遅れている国に支援してほしい、日本製のワクチンを送ってほしい、専門家を派遣してほしい
医療支援	36	検査キット、医療関係者への支援、医薬品や器具を送ってほしい
日本の感染予防の共有	34	マスク、アルコール配布、日本の感染予防策を取り入れたい、3密の徹底
日系社会支援	28	各国の日系団体と連携して現状を知ってほしい、もっと支援できていたはず
ない	23	特にない
日系の高齢者支援	15	高齢者ケア、日本語で情報を発信、ワクチン接種を行ってほしい
日本を心配している	14	日本でのワクチン接種を進めてほしい、対応が遅れている、メディアが騒ぎすぎる
国レベルでの社会支援	8	自国では支援を受けられていない
経済活動支援	7	生活支援、日系企業家支援、雇用
感謝	6	支援を続けてほしい、日本はよくやっていると信じている、いつも援助してくれている、感謝している、日系に対しての心配してくれて感謝している
入国制限の緩和	6	ガイド無しの訪日できるようにしてほしい 旅行再開

在日日系人への支援	5	在日日系人への支援
各国がそれぞれの国民に責任を持つべき	3	各国がそれぞれの国民に責任を持つべき
オンライン学習指導	2	オンライン学習指導
教育分野支援	2	教育分野支援
オリンピック再考	1	東京オリンピックを再考してほしい
支援は公正さをもってほしい	1	外務省が行う支援活動を行う団体は社会性を求めているほしい
技術支援	1	技術支援
社会支援	1	支援を必要としている所へ協力してほしい
心身の健康	1	メンタルヘルスケアが必要
回答数	254	

【記述式／回答者数 321人】

IV. まとめと考察

日系人の理解に関する新たな認識の必要性

「日系人」というコンセプトは、かつて計画的な移民のあった国で生まれた日系人の、それも二世、三世までが情報源としてその根底が築かれ、今までかなりステレオタイプに語られてきていたと考える。時代の変遷、文化の多様化、ダイナミックな人の移動、人種の混合など、さまざまな要因で日系人の内容も多様化し、言われてきているイメージと実像には大きな差が生じている。最早従前のままの意識では日系人を正確に理解することはできない。現実をつぶさに見れば、日系人を定義することすら困難になっている。

混血が進んだ場合、日本人の血が薄まっていく中で、本人に日系人としての意識があるのかどうか、遠い先祖が日本人であることは知っていても日系人と自分で名乗ってよいのかどうか、また逆に混血していなくても日系人としての意識を持たない場合はどうなのかなど、主観的にも客観的にも、それを判断する道具がない。

さらに、ルーツに日系人がいることを本人が承知していても、時代を経て血統として他民族の血が濃くなった場合に、国勢調査などでの人口調査の中には日系人としては登場しないケースが多数存在しているであろうことは容易に想像できる。それぞれの国家の人種構成の中に日系人としてはカウントされない日系人も数多くいることになる。国勢調査による日系人人口（「黄色人種」と、本人が知る範囲における日系人の数はリンクしない。

また、何世かという世代の問題も複雑化している。例えば、日系人の数が圧倒的に多いブラジルの場合に顕著で、二世同士の婚姻による三世の誕生はかなりの割合で存在したが、時間の経過に従って、例えば二世と三世、三世と非日系、三世と一世、混血二世と混血三世などの婚姻の組み合わせの条件が増加し、同じ「四世」も解釈によっては二世にも三世にもなり得ることもあれば、三世の子どもが二世に戻るとするような現実にも遭遇するようになった。

「日系人」という言葉に違和感を持つというケースも生じている。増加傾向にある日本で生まれ育つ日系人は、国籍では外国人だが文化的には日本人と変わらない。逆に日本人同士の子どもで日本国籍を所持していても、中南米で生まれ育って文化的には二世である場合もある。どちらも、自分はより日本人であり、人から日系人と呼ばれることには違和感があるという。

全体の調査を通して、世代を経ても日系人の子孫であることを認識し誇りに思い、日本への関心、興味や憧れを持つ人が多く、その思いが明らかになった。日本語が得意かどうかや、日本の社会や文化を知っているかどうかとは別の次元で、基本的な感情としての日本人性を感じているように思える。そして、その根拠を、道徳心や倫理観などの精神性、すなわち誠実さや勤勉さ、他人への配慮といった、近年母国語に直してよく言われるようになった「日系人のよき特徴」に求めている。先代たちから受け継いだ日系人の持つ強い道徳観や倫理観が、自国発展への貢献につながっている、役に立っている、今後も自国で生かしたい、という自負や誇りにつながっている。その度合いは、今まで繰り返し言われてきた「日本人は信用がある」という言葉では言い尽くせなくなっている。

また、そのような誇りを持つ一方で、日本を訪問した経験のある人は、自分達が何者であるのか

を考えさせられたり、また日本での日系人の認知度が低いということを目の当たりにしたりした経験から、日本側に自分達を認めてほしいという欲求も強く持っている。

それぞれの歴史と現実の両面を踏まえた上で、日系社会と日系人について認識を、理解し直し、新たなイメージを構築する時期が来ていると思われる。

国ごとの違いと共通性

同じ日系人といっても、各国それぞれの特徴がある。歴史、移住形態、人数などが全く違うので、それぞれに適応した施策が必要だと思われる。推定日系人数が数百人台の国と百万人台の国では違うということを認識はしていても、実質的に何が違うのかまで、なかなか思いが至らない。

集団による移住の有無、その延長といえる「日系社会（コロニア）」の有無、その身近さ、日本との距離感などを考慮する必要がある。「日系社会」が明らかに存在し、そこが日本（日系）文化との接点となりそれを伝承・維持・発展させているアルゼンチン、ペルー、ボリビア及びブラジル等と、個人的な移住から発展している日系人の多いチリ、ウルグアイ、エクアドル等とは、基本的な生活文化基盤が異なっている。またメキシコは日本と比較的近い距離にあり、現地の日系人の証言によれば、日本文化に直接接する機会も多く、他の国のように日系社会の中でそれを維持しようとする必要がないという見解がある。

最大の日系社会を持つブラジルの場合は、人数が圧倒的に多く、居住範囲も広大で散在しており、同一の情報が広く伝わりにくい。例えば公費による留学や研修が国単位で行われると、その機会を得る割合が低くなり、不利であると言わざるを得ない。

またボリビアやベネズエラからの声としては、ブラジル、アルゼンチン、ペルーあたりは、日本との交流が盛んで日本からの要人が訪れるが、自分たちのところにはなかなか来てもらえないという不満も聞かれた。

それぞれの国内においても、大都市と奥地という地域差が大きいことも考慮に入れておかねばならない。同じ質問でも、おかれている状況によって、質問の意図が微妙に異なることがあり、そこに注意しないと、思わぬ読み違いが生じる可能性がある。

そのような大きな差異がありながら、共通項として認められるのが、前述した日系人の特徴で、どこへ行っても日本人が大切にしてくれ誇りとしてきた精神性である。各国の歴史的背景をふまえた上で、その共通性をキーに日系人を考えることで、まとめやすい一面もある。

この調査を可能にせしめたのは、取りも直さず日系人が持っているネットワークである。必ずしも表から見えるものではないが、確実に存在しておりこのような折には機能することが分かった。四世、五世の世代でも日系のネットワークはまだ維持されている。もちろん、中南米特有のフレンドリーな対応としてという一面が作用しているとは思うものの、見も知らぬ者への協力として時間を割いてくれた裏には、日系同士という互いの信用があつてのことであり、言わずもがなの安心感を共有していると理解してよいのではないと思う。

日系団体の存在意義

各国において、様々な形で日本人会や日系人協会という団体・組織が存在している。その特色もそれぞれの歴史背景によって様々で、主として日本文化・日系文化の継承やその実践の現場、地域における文化的コミュニティ、日本との接点、日系人同士の親睦、地元社会への日本文化の発信基地というようなことが目的となっている。

そのような場所での活動を通して、日系人意識や日系人氣質の良さを互いに確認し合える場となる。また、文化やスポーツ活動、イベント運営などが、本人たちの文化継承に与するのみならず、地域貢献にも及んで存在意義は大きい。また、日系社会の代表という役割を担うこともある大事な存在だ。

もちろん日系人全員がそのような組織に属しているわけではない。むしろ、正式に属している人の方が少数派である可能性は高い。所属するかどうかは、日系意識の有無とは基本的に無関係で、日系人としてのアイデンティティを左右ものではないが、そのような団体に属さない（または属することができない）場合のデメリットが、日系社会向けの日本からの情報網から漏れてしまうことだ。

日系社会が比較的新しい地域では、日本文化継承の場というより、一世の同窓会的な色彩が強い（古くブラジルの日本人会にもそのような評価があった）という指摘があったり、特定の人たちの集いで排他的なものを感じるという声があり、あえてそこへ入ろうとはしない若い世代も存在している。新しい世代の中には既存の団体・組織を引き継ぎ、日系同士の絆を確認する場が欲しいという希望はあるものの、現在の伝統的な色彩の日系団体とは心情的になじまないという声が多かった。

これらの団体は、特に若手の日系人の窓口になり得ていない可能性があり、若手日系人は個人的に情報収集を行わないと、日本の情報を得られないという残念な事態も起こる。

「情報や機会が同じところにしかない、行き届いた広報を望む、チャンスが巡ってこない」といった意見が多く出てきて、「私たちはここにいますよ」の叫びが聞こえた。

幅広く声をかけていく必要性のあるなか、日系社会と呼ぶに足るものではないにしても、若い日系人たちには主にインターネットを通じた独自のネットワークの存在が認められるので、彼らへの情報発信については、SNSを通じたやりとりが有効であると思われる。ただ、既存の日系団体のような物理的な活動拠点がない場合、今度は現実における経験を積むことに不足が生じてしまう。

意識を高めるために有効な会館活動やイベント

前述したように、日系団体には様々な役割があるが、活動やイベントの拠点となるのが「会館」だ。その内部での活動やイベント、会館自身を運営するうえで、日系人としての良い点（若い世代が「日系の**Valor**（価値）」と表現する）である、誠実さや努力、協調性などの日本人性、日系人性を体現することができる。会館はまさにそれらの実践の場であり、意識の共有ができる貴重な場となる。このすり合わせがないと、文化共有がしにくく、「二世」、「日系」という言葉すら通じないことも起こる。

古い体質が残るところもあるが、それぞれの土地に適応させた形、その国のフィルターを通した日本文化、日系文化であり、ある方向には洗練もされている。若い人たちの間で、一度は希薄になってしまった日系同士の結束をもう一度取り戻したい、という声に、会館は役に立つ機関となるはずである。

若い世代では、学業やビジネスで土地を離れ、日系社会と疎遠になることも多い。しかし、一時的にでも、イベント運営や団体の運営、スポーツや文化活動など、会館への参加経験があると、いつでも日系社会というものの認識を共有できる素地ができる。

特にイベントは、地元の非日系の観客を動員し、賞賛を受けるという感動的要素があり、日系意識の高揚につながる。

日系社会との関りの中で、もうひとつ欠かせなくなってきたのが非日系に対する考え方だ。この日系イベントが盛んになり、日系社会への参加が増え、日系人の持つ道徳観なども伝わるようにな

り、非日系の存在は年々大きくなっている。また、和太鼓やポップカルチャーなど、日本文化継承の担い手の一部ともなってきた。その点を考慮して、現代の日系社会を考える場合には、特に日系人の周囲にいる非日系人の存在も含めて考えていくことが大切だと思われる。伴侶に非日系を選んでいく日系人が増加していくであろうこともあり、非日系の人たちへの働きかけは、またそれがあること、日系人への刺激にもなる。

日系人は中南米に何を残しているのか、の答えをこの辺りに見つけることができる。

日系社会がその国に与えている影響を考える

例えばブラジルでは、日本人・日系人と同じ社会で過ごしてきた過去を持つブラジル人が多く存在し、彼らは日系社会がブラジルに様々な影響を与えてきた歴史を知っており、日系社会に対してリスペクトを持っている。それゆえ、ブラジル各地に400以上存在している日系団体は、地元当局と連携して事業を運営することがよくある。市の歴史より日系社会の方が古い場合もあり、日系団体の会館が町唯一の文化拠点として機能していたり、その事業が町の方針として運営されることもしばしばある。

多文化である中南米では、多様性を肌で知っているところがあり、それを尊重するという基盤がある。日本文化、または日系文化、あるいはその融合体も土地に定着し、やがて自国の大切な文化として育っているという認識ができていく。このような環境にあって、日系人は個人のなかで、ブラジル人である強い自覚と、日系人である自覚を共存させることができる。しかしながら、それら日系の貢献や日系的なメリットは、その日系的な性質ゆえに、殊更強調することもなく時には過小評価する傾向もある。その国から受けている信頼や、その国民の日本文化への関心、自分たちが受け継いでいる精神文化など、日系人が自分たちのなかで当たり前になってしまっている日系社会の現実を再評価し、若い日系人にはそれを教えていくことも大切である。

日本語教育と文化継承について

日本語を話せない日本人など日本人ではない、と、子弟に日本語学習を強要した人たちは、移住地に多かった。結果、反発を招いて日本語離れする人たちもいた。一方、子どもの教育は、生活のために現地への適応を最優先し、日本語は二の次だったという話も多い。いずれの立場でも、「日本語を習ったことがある」と回答した人は、予想以上に多かった。

中南米において日本人子弟である証拠として日本語を話せなければならないという考え方は、すでにほぼ消滅しており、先祖から引き継いだ日本人的魂は、自国語であるスペイン語やポルトガル語で明快に説明できるようになってきた。移民の古い国から、日本語ができない方が大勢を占めるようになり、日本語のできないことがコンプレックスにもならなくなったため、あえて日本語に力が注がれなくなってきたというのが現実のようだ。日本語能力は全体的に高くない。

文化継承（ここでは主に日本精神文化）が、日本語なくしても社会の中で共有意識として認められるという事実が本調査から垣間見えたことに照らすと、日系社会に日本語学習者を増やすことは難しいのかもしれない。ただし、日本文化と日本語との密接な関連性を理解している人は多いようで、日系人には、片言でも体験的に言葉の真意に到達できるメリットがある。

実は子どもの頃に習っておけばよかったという後悔を語る人は実に多い。

V. 今後あり得るべき施策一案

① 新たな日系像への書き換え、新たなイメージづくりの必要性

長く語られてきている（伝統的）日系人像、日系社会像は、現実とかみ合っていないという事実を前に、現代の日系人の実態を知って認識を新たにし、ステレオタイプの日系人像から抜け出すことが必要だと思われる。

《具体的な施策の一案》

- ・日本における日系社会・日系人の歴史と現在の活躍状況、各国に与えている影響などの積極的な発信や教育。
- ・日系人に関する解釈を多様化させるための情報づくり。
- ・様々な視点からの定期的な調査の実施。

② 日系意識を高揚させる場づくり

日系人口は国勢調査には表れない。本人の意識によって日系人かそうでないかが決まるものであるなら、その意識を失わないように日本から働きかけることは大切。日系人であることを意識する場である日系団体やイベントなどを利用し刺激することは有効。

《具体的な施策の一案》

- ・日系団体が行うイベントへの支援。
- ・イベントにおける非日系への働きかけ。
- ・日系人が自覚として持つValor（価値＝誠実さ、配慮、勤勉、協調性等）を認め、連帯感を高める。

③ 日本との交流の活発化

すでに日系としての意識がベースにあるため、一度の交流体験が大きな学習のきっかけになったり、あるいは日本へ一度行くだけで、日本や日本語、日系人としての意識を変えることができる。そのような機会を積極的に作る。

《具体的な施策の一案》

- ・三世までに限らないビザ取得条件の緩和。
- ・短期留学の機会創設。
- ・「ルーツ探訪の旅」への支援。

④ 日系社会へ向けての情報発信の多様化

幅広い年齢層や地域を意識し、一定の情報網に頼らず、様々なオンラインツールを活用する。その際、日本語が通じないことを考慮する必要がある。また、必ずしも大都市だけが日系社会を代表するわけではないことなどをも考える必要がある。

《具体的な施策の一案》

- ・ SNSの積極的な利用と親しみのある内容への転換。
- ・ 邦字新聞社や発信ツール管理者への支援。
- ・ 発信力のある媒体や人材の発掘。

⑤文化発信の拠点としての日系社会への支援

中南米各国が日系社会に注目していることを認識し、とくに文化活動において非日系社会を視野に含めていくことは大切。その効果によって日系社会も発展できる。文化の継承、醸成はコミュニティあってこそ。非日系社会への呼びかけを含めた日系団体への支援が望まれる。

《具体的な施策の一案》

- ・ 日系団体を通して地元メディアへの働きかけを促す。
- ・ 数多くの日系団体への情報提供。
- ・ 各団体の活動状況からニーズを把握する。
- ・ 日系団体を利用した和食普及活動の奨励。
- ・ 若い層への日系社会再認識のための教育推進。